



MOTIF XFエディター VSTマニュアル

目次

MOTIF XFエディター VSTとは	2
MOTIF XFエディター VSTのデータ構成	3
MOTIF XFエディター VSTの起動	4
MOTIF XFエディター VSTの操作の流れ	7
各部の名称と機能	13
MOTIF XFエディター VSTの基本操作	35
メニュー	37
トラブルシューティング	53

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- このマニュアルファイル内の「[青色](#)」の文字をクリックすると、関連する項目にジャンプします。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれています。Windows/Macの操作方法については、Windows/Macに付属のマニュアルをご参照ください。

MOTIF XFエディター VSTを使用するために必要なコンピューター環境、機器の接続、MOTIF XFエディター VSTのインストールについては、別冊のインストールガイドおよびご使用のMIDI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

MOTIF XFエディター VSTとは

MOTIF XFエディター VSTは、MOTIF XF6/7/8のボイスまたはマルチ音源(ソング/パターンモード)の設定を、コンピューター画面を使って視覚的に確認しながら編集することができるソフトウェアです。MOTIF XF6/7/8本体のパラメーターをコンピューターからリモートで編集したり、MOTIF XF6/7/8内のデータをコンピューターに保存したりできます。

このMOTIF XFエディター VSTは、Steinberg社が提唱する「VST3テクノロジー」に対応しており、「Cubase 5.1.1/Cubase Studio 5.1.1/Cubase Essential 5.1.1/Cubase AI 5.1.1以降(以下Cubaseシリーズ)」上でVST3プラグインとして利用できます。MOTIF XFエディター VSTは、Cubaseシリーズ上では他のソフトウェアVSTインストゥルメントと同様の操作で使えますので、編集した内容をプロジェクトファイルに保存したり、以前保存した音色を他のプロジェクトで利用したりもできます。また、MOTIF XF6/7/8のボイスデータを、Cubaseシリーズのメディアベイ内で扱えますので、メディアベイからMOTIF XF6/7/8のボイスの検索、視聴、読み込みも可能です。このように、MOTIF XFエディター VSTを使用することで、ソフトウェアとハードウェアが統合された環境となります。

MOTIF XFエディター VSTには、画面をお好みの色相に変えられる機能があります([6ページ](#))。このマニュアルでは、色覚の個人差を問わず多くの方が見やすい色相の画面を使用しています。

初期設定の色相



色相を変更した例



MOTIF XFエディター VSTのデータ構成

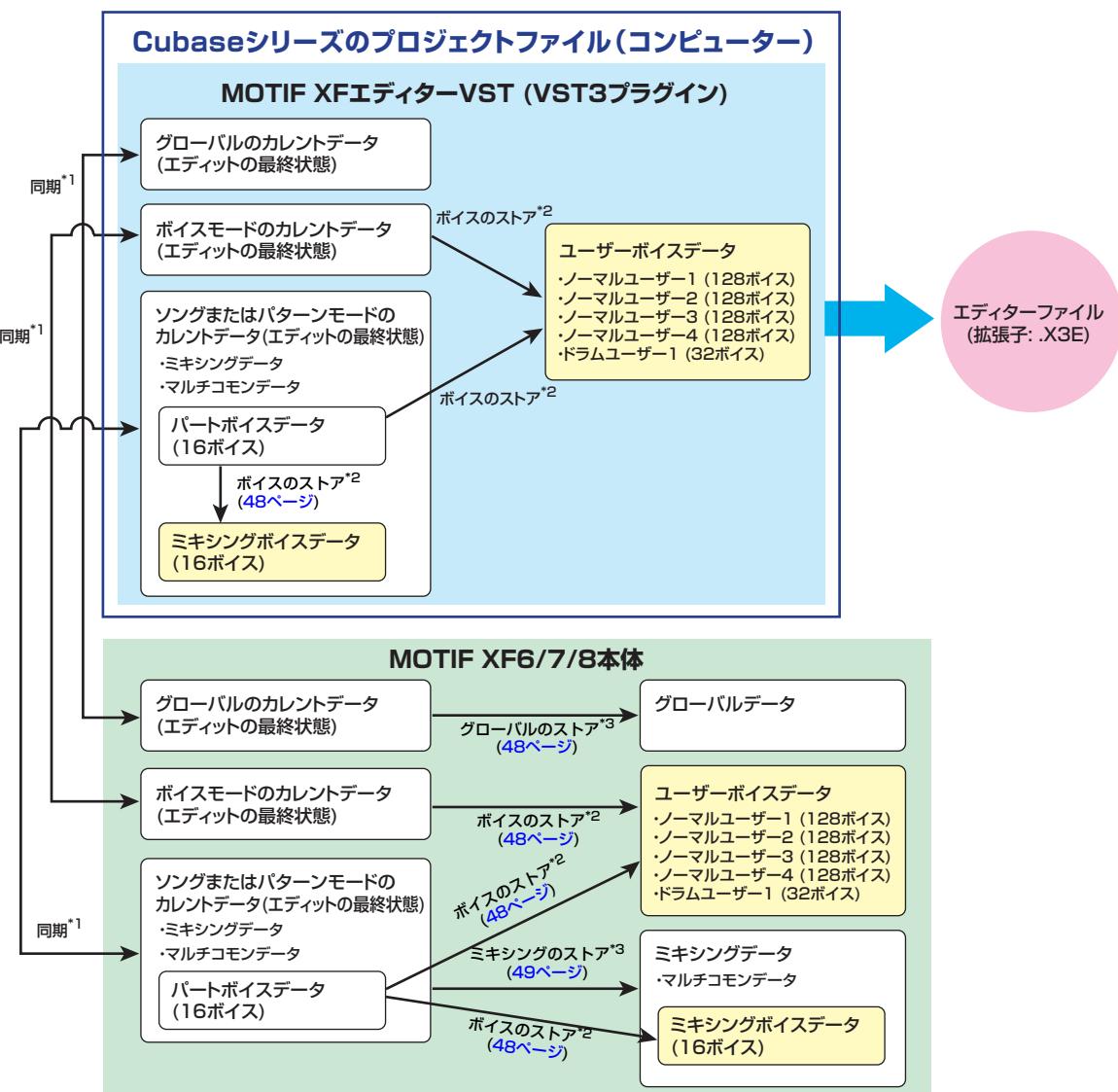
MOTIF XFエディター VSTでは、下記を1つのファイルとして保存できます。

- グローバルのカレントデータ(エディットの最終状態)
- ボイスモードのカレントデータ(エディットの最終状態)
- ソングまたはパターンモードのカレントデータ(ミキシングデータ、各パートでのボイスエディットの最終状態、ミキシングボイス×16)
- ユーザーボイスデータ(ノーマルユーザー×4、ドラムユーザー×1)

カレントデータとは、各パートのボイス設定やパン、ボリューム、エフェクトなどのミキシング設定だけでなく、各パートで最後に選択されていたボイスの、コモンエディットやエレメントエディットの最終状態も含んでいます。また、保存できるボイスバンクのうち、ミキシングボイスだけはカレントデータに属します。MOTIF XFエディター VSTでは各パートのノーマルボイスを、エレメントにまで踏み込んでエディットでき、またそのエディットした最終状態を、ユーザーボイスやミキシングボイスとして本体にストア(保存)しなくとも、そのままファイルとして保存できます。したがって、保存したファイルをあとで再度読み込めば、エディットの最終状態をすぐに再現することができ、便利です。

NOTE MOTIF XFエディター VSTでは、ミキサー部の「G」列に表示されているパラメーターの一部と、パラメーターカテゴリー部の「Global Settings」のパラメーターを合わせて、「グローバルデータ」として扱っています。

MOTIF XFエディター VSTによって作られるデータの構成、MOTIF XF6/7/8本体内部のメモリーでのデータ構成、および両者の関係については下図をご覧ください。



*1 コンピューターとMOTIF XF6/7/8本体が適切に接続されていてオンラインの状態に設定されていれば、MOTIF XF エディター VST側でエディットしても本体側でエディットしても設定された状態は同期します。

*2 MOTIF XF エディター VST側でストア(保存)操作を行なうことで、実機側でもストアが行なわれます。

*3 グローバルデータとミキシングデータについては、MOTIF XF エディター VST側でのストア(保存)操作により、MOTIF XF6/7/8本体のメモリーにデータが保存されます。

MOTIF XFエディター VSTの起動

MOTIF XFエディター VSTのインストールガイドに従って、MOTIF XFエディター VSTやその他必要なソフトウェア、ドライバーなどをインストールします。コンピューターとMOTIF XF6/7/8をUSBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを用いて接続し、MOTIF XF6/7/8のMIDIメッセージの入出力先を設定したあと、以下の操作でMOTIF XFエディター VSTを起動します。

ここでは例としてCubase 5.5を使用して、IEEE1394 (FireWire)ケーブルで別売のFireWire拡張ボード(FW16E)に接続したときの起動方法を説明します。

NOTE MOTIF XF6/7/8とコンピューターとの接続について詳しくは、「MOTIF XF6/7/8本体の取扱説明書」の「コンピューターと接続して使う」をご参照ください。

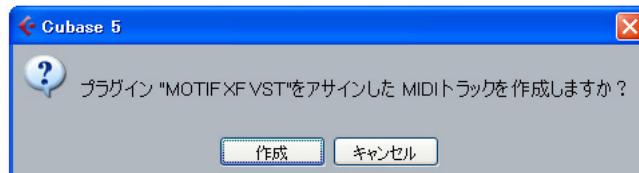
1. Cubaseシリーズの[デバイス]メニューから[VSTインストゥルメント]を開きます。



2. VSTインストゥルメントトラックのインストゥルメントスロットをクリックして、[External] → [MOTIF XF VST]を選択します。



3. 「プラグイン "MOTIF XF VST" をアサインした MIDI トラックを作成しますか?」というメッセージが表示されますので、[作成]をクリックします。



MIDIトラックが新規に作成され、MOTIF XFエディター VSTが起動します。

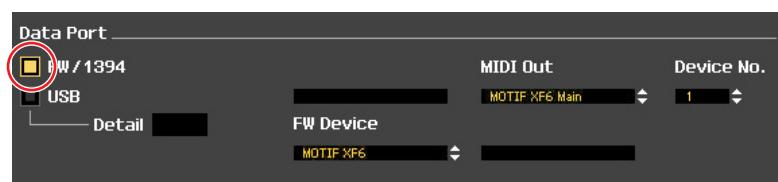
4. VSTインストゥルメントトラックの、[e]ボタンの右横にある出力設定ボタンをクリックして、[全出力を有効]を選択します。



Cubaseシリーズのミキサー ウィンドウに MOTIF XF1～8 のバスが作成されます。

5. MOTIF XFエディター VSTの[ファイル]メニューから[エディター設定]を開きます。

6. Data Port の[FW/1394]にチェックを入れます。



7. FW Device で、「MOTIF XF6 (MOTIF XF7、MOTIF XF8)」を選択します。



8. MIDI Out で「MOTIF XF6 (MOTIF XF7、MOTIF XF8) Main」を選択します。

9. [OK]ボタンをクリックしてエディター設定画面を閉じます。

10. MOTIF XFエディター VSTの[ファイル]メニューから[VSTi設定]を開きます。

11. [Auto]ボタンをクリックします。オーディオポートが自動的に設定されます。

12. [OK]ボタンをクリックしてVSTi設定画面を閉じます。

13. MOTIF XFエディター VSTがオフラインの場合は、[OFFLINE]をクリックしてオンラインにします。

14. クイックセットアップの「MIDI」を[Rec on PC]、[FW Monitor]を[With PC]に、それぞれ設定します。



NOTE 手順5から手順12は、初回起動時に必要な設定です。以後はMOTIF XF エディター VSTに保存されますので、毎回設定する必要はありません。

NOTE MOTIF XF エディター VSTは、インストゥルメントトラックからも起動できます。Cubaseシリーズの「プロジェクト」メニューから、「トラックを追加」を選択し、「インストゥルメント」を選択し、「インストゥルメントトラックを追加」画面を表示します。トラックを追加ボタンを押し、インストゥルメントトラックを表示させます。インストゥルメントトラック上の「インストゥルメントを編集」ボタンを押すと、MOTIF XF エディター VSTを起動します。

NOTE MOTIF XF エディター VSTは、メディアベイからも起動できます。Cubaseシリーズの「メディア」メニューから、「MediaBay」を選択し、「MediaBay」を表示します。MediaBayからボイスを選択し、右クリックでプロパティを表示し、トラックを作成を選択します。作成されたインストゥルメントトラック上の「インストゥルメントを編集」ボタンを押すと、MOTIF XF エディター VSTを起動します。

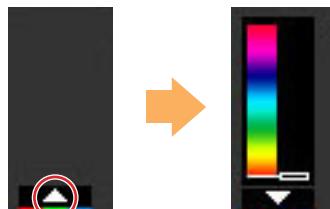
NOTE MOTIF XFの本体の設定も必要です。[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDIの順にボタンを押し、「MIDI In/Out」の項目を設定します。USB接続の場合は「USB」、IEEE1394接続の場合は「FW」に設定し、[STORE]ボタンを押して、ユーティリティの設定を本体に保存してください。

画面の色相を調節する

MOTIF XFエディター VSTには、の画面は、お好みの色相に変更できます。

1. 画面の左下端にある三角形のボタンをクリックして、色相を調節するスライダーを表示します。

もう一度、三角形のボタンをクリックすると、スライダーは消えます。



2. ドラッグしたりクリックしたりすることで、色相を調節します。



Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、色相を初期状態に戻せます。

Macでは、コマンドキーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、色相を初期状態に戻せます。スライダーの操作方法については、[36ページ](#)をご覧ください。

MOTIF XFエディター VSTの操作の流れ

MOTIF XFエディター VSTの使い方には、決まった操作手順はありません。次のような操作の流れを参考に、目的に合ったエディット作業を行なってください。ここでは、ボイスモードでのボイスエディット、ソングモードでのミキシングエディットを順に行ない、エディットして作られたデータをMOTIF XF6/7/8本体の内部メモリーにストア(保存)したり、エディットした最終状態をファイルとしてセーブ(保存)する流れを説明します。

ボイスモードでのボイスエディット

NOTE Voice/Song/Pattern表示が「Song」または「Pattern」になっている場合は手順1から、Voice/Song/Pattern表示が「Voice」になっている場合は手順2から操作してください。

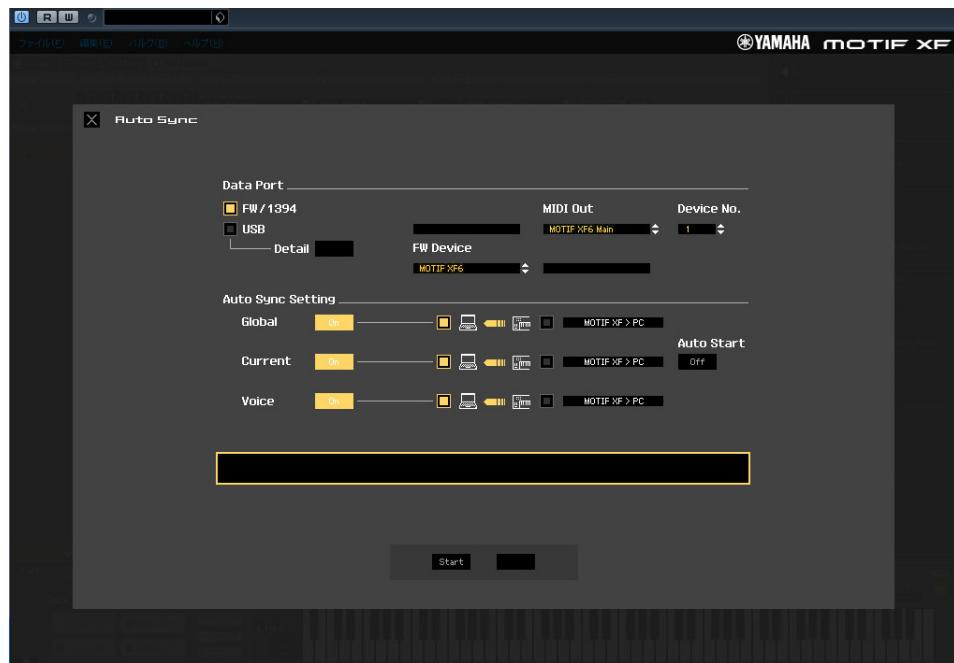
1. Voice/Song/Pattern (ボイス/ソング/パターン)表示の「Voice」をクリックし、ボイスモードに切り替えます。

モードを切り替える前にONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)表示がONLINEになっている場合は、この手順1の操作でAuto Sync画面が自動的に現われますので、手順3に進んでください。

2. ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)表示がOFFLINEになっている場合は、[OFFLINE]をクリックしてAuto Sync (オートシンク)画面を表示させます。

3. Auto Sync (オートシンク)画面では、Data Port部でMOTIF XF6/7/8本体と通信するための入出力用ポートやデバイスナンバー、Auto Sync Setting部でグローバルデータ、カレントデータ、ユーザー音データそれぞれの同期方向などを設定します。

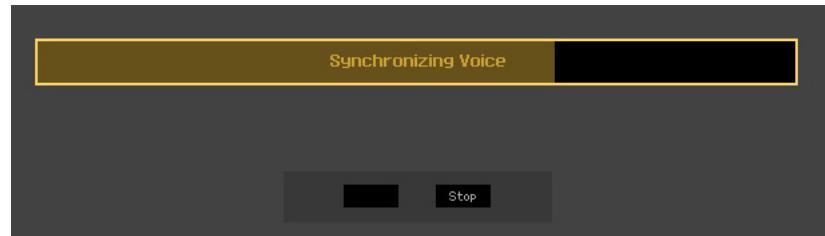
データ同期の方向は、MOTIF XF6/7/8本体のデータを元に編集をしたい場合、MOTIF XF6/7/8本体から受信する方向に設定してください。コンピューター上に保存していたMOTIF XFエディター VSTのファイルを元に編集をしたい場合は、MOTIF XF6/7/8本体に送信する方向に設定してください。設定の詳細は、「エディター設定」(40ページ)をご覧ください。



- 注記**
- Auto Sync (オートシンク)画面のGlobal (グローバル)、Current (カレント)、Voice (ボイス)をOnにし、その横にあるMOTIF XF6/7/8本体のイラストの右横にあるボックスをオンにして[Start]ボタンをクリックすると、MOTIF XFエディター VST上の各データがMOTIF XF6/7/8本体に転送されます。これにより、MOTIF XF6/7/8本体の内部メモリー上の各データが、上書きで消されることになるのでご注意ください。MOTIF XF6/7/8本体のデータを元に編集をしたい場合は、必ずコンピューターイラスト側のボックスをオンにしてください。
 - データ同期の方向については、MOTIF XFエディター VST上記画面での設定が適用されます。誤ってデータを上書きして消してしまった場合、データを戻すことはできません。誤ってデータを失なうことがないよう、データ同期の方向についてはMOTIF XFエディター VST上で確実に行なってください。

4. Auto Sync (オートシンク)画面で、[Start]ボタンをクリックします。

ポートが正しく設定されていれば、データ同期が始まります。完了すると自動的にAuto Sync画面が閉じ、MOTIF XF エディター VSTはONLINE状態になっています。ONLINE (オンライン)の状態とは、MOTIF XF エディター VST上で設定変更がそのままMOTIF XF6/7/8本体にも反映される、またはその逆にMOTIF XF6/7/8本体上で設定変更がそのままMOTIF XF エディター VST上にも反映される状態をいいます。



ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)について詳しくは[\(13ページ\)](#)を、ご覧ください。

5. ボイスモードで、ボイスのエディットを行ないます。

5-1 Voice (ボイス)欄にある「V」の列の、バンク名またはボイス名のボックスをクリックすると、「VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)」が表示されます。



5-2 エディットしたいボイスをVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)のリストから選択します。

エディットしたいボイスをクリックしたら、MOTIF XF6/7/8本体の鍵盤を弾くか、鍵盤イラストをクリックして音色を確認しましょう。

5-3 エディットしたいボイスが決まったら、そのボイス名をダブルクリックするか、画面右下にある[OK]をクリックして、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面を閉じてください。

ボイス選択をとりやめたい場合は、画面右下にある[Cancel] (キャンセル)か[X] (終了)ボタンをクリックしてください。VOICE LIBRARYが閉じられ、エディットの対象となるボイスも元に戻ります。

注記 エディットの対象となるボイスを別のボイスに変更すると、それまでエディットしていたボイスの状態は消去されます。それまでにエディットしていたボイスを保存したい場合は、ストア([48ページ](#))を実行してからボイスを変更しましょう。

5-4 各種パラメーターの設定を行ない、ボイスをエディットします。

Voice (ボイス)欄のVの列にあるEQ、コーラス、リバーブなどのパラメーターをクリックして値を変更してみましょう。



音がどのように変わらるかについては、MOTIF XF6/7/8本体の鍵盤を弾くか、画面下部にある鍵盤イラストをクリックして聞いてみましょう。



画面右端にあるパラメーターカテゴリ一部(21ページ)のオープン/クローズボタン(▶ボタン)をクリックすると、詳細パラメーター部が開きます。詳細パラメーター部では、現在エディット中のボイスに対して、さらに細かいパラメーター設定ができます



NOTE ボイスエディットの各種パラメーターに関しては、リファレンスマニュアル「ノーマルボイスを作り変える(ボイスエディット)」、「ドラムボイスを作り変える(ボイスエディット)」をご参照ください。

6. 必要に応じて、エディットしたボイスを保存(ストア)します。

6-1 [編集]メニューの[ボイスのストア]を選択してストア画面(48ページ)を開きます。

6-2 以下のボイスバンクから保存するバンクを選択します。

- Normal User 1 (ノーマルユーザー 1)
- Normal User 2 (ノーマルユーザー 2)
- Normal User 3 (ノーマルユーザー 3)
- Normal User 4 (ノーマルユーザー 4)
- Drum User (ドラムユーザー)

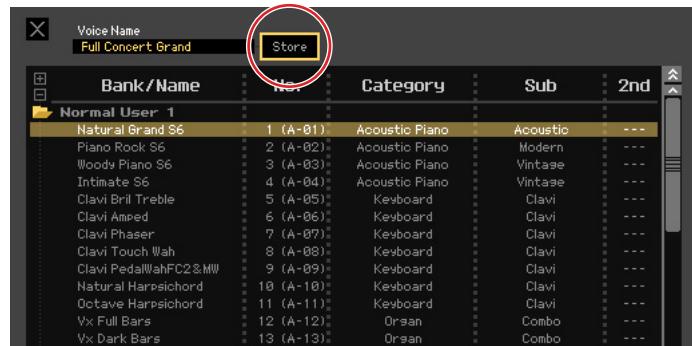
NOTE ノーマルボイスをエディットしていた場合はノーマルユーザー 1~4がストア画面に、ドラムボイスをエディットしていた場合はドラムユーザーバンクがストア画面に表示されます。

6-3 選択したバンクを開き、保存したいナンバーを選択し、必要に応じてボイスネームを付けます。

6-4 [Store]ボタンをクリックして、エディットしたボイスを選択したバンクのナンバーに保存します。

ストアを実行することで、ボイスデータはMOTIF XFエディターVST内部のユーザー銀行に保存され、さらに同期してMOTIF XF6/7/8本体のメモリーにあるユーザー銀行にも同様に保存されます。

注記 ストアを実行することによりストア先のボイスデータが、MOTIF XFエディターVST内およびMOTIF XF6/7/8本体のメモリーともに書き換えられます。大切なボイスデータを間違って消去する事がないよう、注意してストア先を選びましょう。また、あらかじめUSB記憶装置に保存(セーブ)しておくことを、おすすめします。



NOTE [編集]メニューの[グローバルのストア]を選択すれば、Global (グローバル)欄のChorus (コーラス)タイプとReverb (リバーブ)タイプを除くパラメーターでエディットした内容をMOTIF XF6/7/8本体に保存できます。

ソングまたはパターンモードでのミキシングエディット

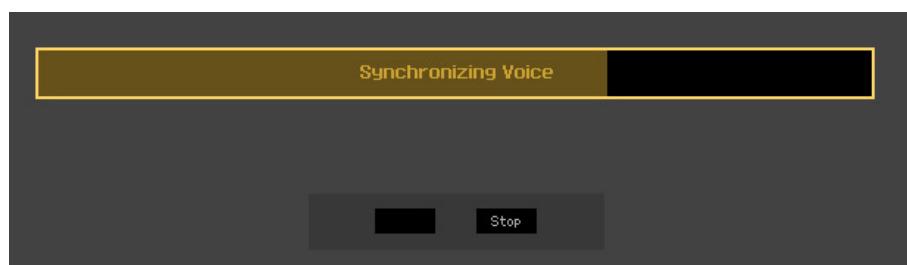
ここでは、ソングモードを例にミキシングのエディットを説明します。

1. Voice/Song/Pattern (ボイス/ソング/パターン)表示の「Song」をクリックし、ソングモードに切り替えます。

オンラインの場合はAuto Sync画面が自動的に現れます。

2. Auto Sync (オートシンク)画面で、[Start]ボタンをクリックします。

ポートが正しく設定されていれば、データ同期が始まります。完了すると自動的にAuto Sync画面が閉じます。



3. 各種パラメーターの設定を行ない、ミキシング設定や各パートに割り当てられているボイスをエディットします。

Global/Multi (グローバル/マルチ)欄のGの列やPart (パート)欄の各パートの列にある、EQやエフェクトなどのパラメーターをクリックして値を変更してみましょう。



音がどのように変わるかについては、MOTIF XF6/7/8本体の鍵盤を弾くか、画面下部にある鍵盤イラストをクリックして聞いてみましょう。



画面右端にあるパラメーターカテゴリー部(24ページ)のオープン/クローズボタン(▶ボタン)をクリックすると、詳細パラメーターカテゴリー部が開きます。詳細パラメーターカテゴリー部では、現在エディット中のミキシングに対してさらに細かいパラメーター設定をしたり、各パートに割り当てられたボイスのエディットができます。

NOTE MOTIF XFエディター VSTでは、ボイスモードだけでなくソング/パターンモードでもボイスエディットを行なえます。

ボイスモードでは選択したボイスだけをエディットするのに対して、ソング/パターンモードでは1~16パートの音量バランスなどミキシング設定をしながら、各パートに割り当てられたボイスのパラメーターを調節することになります。いずれの場合でも、同じユーザーバンクにユーザー ボイスとしてストア(保存)できます。



4. 必要に応じて、エディットしたミキシングやボイスをMOTIF XF6/7/8本体の内部メモリーにストア(保存)します。

4-1 MOTIF XF6/7/8本体で、[STORE]ボタンを押してSong Store (ソングストア)画面を呼び出し、保存先ナンバーを選択したうえで[ENTER]ボタンを押し、エディットしたミキシングをソングデータとして設定を保存します。

詳細は、MOTIF XF6/7/8本体の取扱説明書をご参照ください。

NOTE MOTIF XFエディター VST上でも、[編集]メニューの[ミキシングのストア]を選択することでミキシング設定を保存できます。ただしこの場合、保存先は選択できず、MOTIF XF6/7/8本体で現在選択されているソングにデータが保存されます。

4-2 保存したいボイスが割り当てられているパートを選択し、[編集]メニューの[ボイスのストア]を選択してストア画面([48ページ](#))を開き、手順6-1、6-2、6-3、6-4 ([9ページ](#))と同じ操作でボイスを保存します。

5. [ファイル]メニューから[名前を付けて保存]または[上書き保存]をクリックして、エディットしたデータをファイル(*.X3E)に保存します。

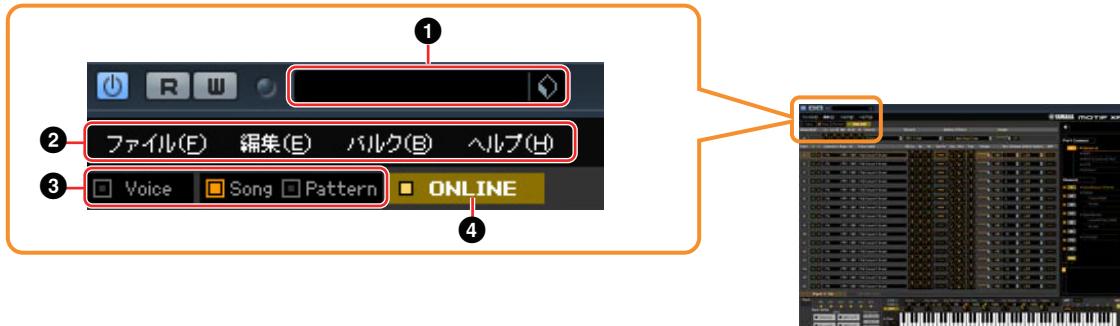
エディットの最終状態およびユーザー銀行に保存(ストア)されたボイスデータを、まとめて1つのファイル(*.X3E)に保存します。次回、同じファイルをMOTIF XFエディター VSTで開くと、Auto Sync画面が自動的に開き、[Start]をクリックすることでMOTIF XF6/7/8本体と同期がとれます。

Cubaseシリーズで制作中の楽曲をファイルメニューから保存すると、使用していたMOTIF XF6/7/8のボイスエディット情報も合わせて、プロジェクトファイルに保存されます。したがって、同じプロジェクトファイルを次回読み込むと、該当ボイスのエディット情報が、MOTIF XFエディター VST に自動的に読み込まれます。

注記 MOTIF XF エディター VSTを使うときは、Cubaseシリーズ の自動保存を無効にしておくことをおすすめします。自動保存が有効になっていると、プロジェクトファイルのバックアップが自動的に生成され、エディット中の状態を示すマークが、設定が保存されていないにもかかわらず消えてしまうからです。これにより、エディット中の設定を保存していくなくても、新規ファイルや別ファイルを開くことができてしまい、それまでのエディットによる設定が消えてしまいます。

各部の名称と機能

全体設定部



① VSTプリセット

MOTIF XFエディターVSTでエディットしたデータを、VSTプリセットとして保存したり、読み込んだりします。右側にあるアイコン(⌚)をクリック、「プリセットの保存」を選択、「プリセットの保存」画面で新規プリセット名を入力したあと、保存します。ボイスモードでは、エディット中のボイスをVSTプリセットとして保存します。ソングまたはパターンモードでは、エディット中のミキシング設定を保存します。

保存したデータは、右側にあるアイコン(⌚)をクリック、「プリセットの読み込み」を選択、VSTプリセット選択画面でVSTプリセットを選択することで、読み込みます。読み込まれたVSTプリセットの名前は、ボックス内に表示されます。読み込まれていない場合は、表示されません。

♪NOTE VSTプリセットとして保存されたMOTIF XFのデータは、Cubaseシリーズ5.1.1以降のメディアベイ内で他のVSTプリセットと同様に扱えます。

注記 上記の操作を行なった場合、MOTIF XFエディターVSTおよびMOTIF XF6/7/8の編集中のデータは自動的に消去されますので、ご注意ください。

② ファイル、編集、バルク、ヘルプ

[37ページ](#)をご参照ください。

③ Voice (ボイス)/Song (ソング)/Pattern (パターン)モード切替

MOTIF XF6/7/8本体のモードをボイス/ソング//パターンモードのいずれかに設定します。ここでモードを切り替えるとMOTIF XF6/7/8本体のモードが自動的に切り替わり、Auto Sync (オートシンク)画面が表示されます。Auto Sync画面上で必要な設定を行なったあと、MOTIF XF6/7/8本体との同期をしてください。

④ ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)

ここをクリックすることにより、ONLINE (オンライン)とOFFLINE (オフライン)を切り替えます。ONLINEが表示されている場合は、MOTIF XF6/7/8本体とMOTIF XFエディターVSTが同期しており、どちらか一方で設定を変更したらもう一方の設定も自動的に変更されます。OFFLINEが表示されている場合は、両者が同期していないことを示しています。

MOTIF XFエディターVSTとMOTIF XF6/7/8本体との通信状況により、自動的に切り替わる場合もあります。たとえば、ケーブルの接続が外れると自動的にOFFLINEに切り替わります。

① ONLINE

MOTIF XFエディターVSTとMOTIF XF6/7/8本体がオンライン状態にあることを示しています。クリックすることにより、オフラインに切り替わります。MIDIポートの設定が適切にできていない場合、またはケーブル接続が外れている場合などは、オンラインに設定することはできません。

② OFFLINE

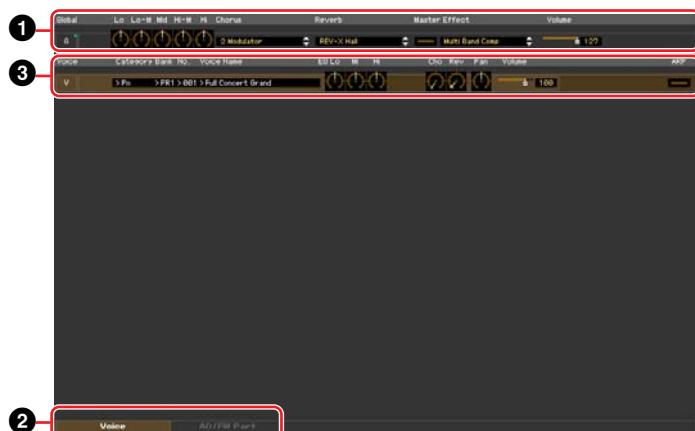
MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれているにもかかわらず、MOTIF XFエディターVSTがオフライン状態にあることを示しています。OFFLINE (オフライン)をクリックするとAuto Sync (オートシンク)画面が開くので、必要な設定を行なったあと、[Start]をクリックすることによりデータ同期を行ないます。データ同期が完了するとAuto Sync画面が自動的に閉じられ、MOTIF XFエディターVSTはONLINE (オンライン)の状態になります。

♪NOTE Auto Sync (オートシンク)画面において、Global (グローバル)、Current (カレント)とVoice (ボイス)がOffに設定されている場合、Auto Start (オートスタート)がOnに設定されている場合にOFFLINE (オフライン)をクリックすると、Auto Sync画面を開くことなく、MOTIF XFエディターVSTの状態がオフラインからオンラインに切り替わります。

③ ■ OFFLINE

MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれていないために、MOTIF XF エディター VSTがオフライン状態にあることを示しています。OFFLINE (オフライン)をクリックするとAuto Sync (オートシンク)画面が開くので、接続を確認し、必要な設定を行なったあとに[Start]をクリックすることによりデータ同期を行ないます。データ同期が完了するとAuto Sync画面が自動的に閉じられ、MOTIF XF エディター VSTはONLINE (オンライン)の状態になります。

ミキサー部 (Voice/Song/Pattern=Voiceの場合)



① Global (グローバル)

ボイスモードで、よく使われるエフェクトなどのパラメーターをエディットする部分です。「G」をクリックすることにより、グローバルパラメータ一群がエディット対象として選択されます。



NOTE ここで説明するパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「G」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の[F]マーク表示(26ページ)と連動します。



Lo, Lo-M, Mid, Hi-M, Hi (マスター EQ)

マスターイコライザーの各パラメーターをエディットします。

Chorus (コーラス)

コーラスのエフェクトのタイプを選択します。

Reverb (リバーブ)

リバーブエフェクトのタイプを選択します。

Master Effect (マスター効果)

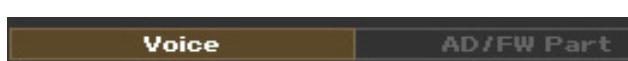
マスター効果のオン/オフを設定し、マスター効果のタイプを選択します。

Volume (ボリューム)

全体のボリュームを調節します。

② [Voice]/[AD/FW Part]タブ

ボイスかAD/FWパートかを選ぶタブです。下図は、ボイスが選択されている状態です。



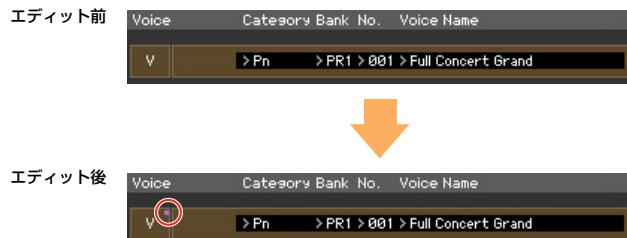
③ Voice (ボイス)

[Voice]タブを選択した場合

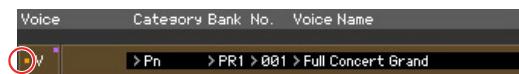
[Voice]タブ(②)を選択している場合、ボイスのパラメーターを表示/編集します。



NOTE ここで説明するボイスパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、または、ボイスをストアするまでの間、「V」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の[V]マーク表示(26ページ)と連動します。



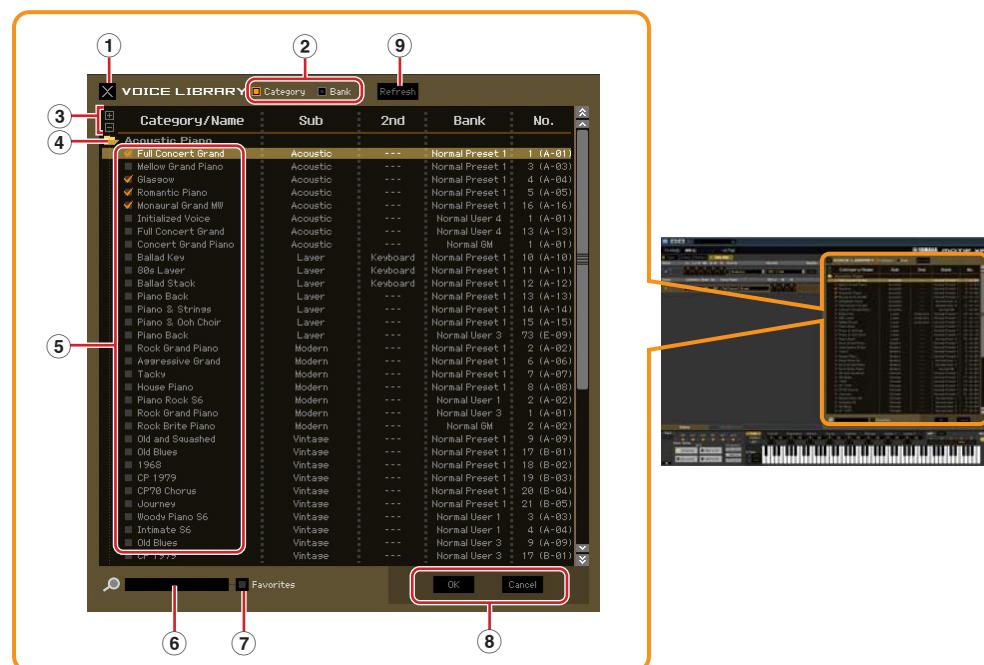
NOTE 「V」マークの左横にはMIDIモニターがあります。MIDIデータを受信すると、MIDIチャンネルに対応したボイスの列で小さなマークが表示されます。



Category、Bank、No.、Voice Name (カテゴリー、バンク、ボイスナンバー、ボイスネーム)

現在選択されているボイス(音色)を表示します。クリックするとVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が表示され、ボイスを選択できます。

VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)



① [×](終了)ボタン

ボイスの変更をすべてキャンセルし画面を閉じ、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が開く前のボイスに戻ります。

② [Category](カテゴリー)/[Bank](バンク)チェックボックス

ボイスを、カテゴリー別のフォルダーに分けるか、バンク別のフォルダーに分けるかを設定します。

③ [+]/[-]ボタン

[+]をクリックすると全フォルダーが開き、中にある全ボイスが表示されます。[-]をクリックすると全フォルダーが閉じます。

④ フォルダー (カテゴリーまたはバンク)

クリックすることにより、フォルダーを開いたり閉じたりします。

⑤ ボイス

フォルダーの中にあるボイス群です。ボイスをクリックすると、そのボイスが一時的に選択されます。ボイスをダブルクリックすると、そのボイスが実質的に選択され、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が閉じます。またユーザー銀行内では、ドラッグ&ドロップにより、ユーザーボイスの並び順を変えることができます。

[Category](カテゴリー)チェックボックスにチェックを入れた場合、各ボイス名の左にチェックボックスが表示されます。お気に入りのボイスやよく使うボイスのチェックボックスをオンにしておけば、

[Favorites](フェーバリット)チェックボックス(⑦)をオンにすることにより、それらのボイスだけを表示させることができます。



NOTE ボイスの選択、コピー、貼り付け、ドラッグ、ドロップについては、コンピューターのOSと同じ方法でできます。

NOTE Windowsの場合は右クリック、Macの場合は<control>キー+クリックにより、下記の機能が使えます。

- 全フォルダーを開く/全フォルダーを閉じる
- ボイスをカテゴリー別のフォルダーに分けるか、バンク別のフォルダーに分けるかを設定する
- コピー/貼り付け
- ボイスネームの変更
- Favoritesの全消去
- VSTプリセットの保存

NOTE VSTプリセットの保存には2つの方法があります。

- ボイスライブラリーで右クリック(Windows)/<control>キー+クリック(Mac)→VSTプリセットの保存
ユーザー銀行のボイスを1ボイス単位でVSTプリセットに保存します。プリセット銀行のボイスをVSTプリセットに保存する場合は、いったんユーザー銀行に保存する必要があります。
- Cubaseシリーズに用意されているVSTプリセットの保存ボタン
MOTIF XFエディター VST全体の設定をひとつのプリセットとして保存します。エディター設定やVSTI設定で選択したポートも保存されますので、接続方法を変更したときはご注意ください。

⑥ 検索ボックス

ここにキーワードを入れることで、使いたいボイスを探し出せます。

⑦ [Favorites] (フェーバリット)チェックボックス

このチェックボックスをオンにすることにより、自分のお気に入りのボイスやよく使うボイスだけをVOICE LIBRARY上に表示できます。お気に入りのボイスやよく使うボイスについては、各ボイスの左側のチェックボックスにチェックを入れて指定します。左側のチェックボックスは[Category] (カテゴリー) チェックボックスにチェックを入れた場合にのみ表示されます。

⑧ [OK]/[Cancel] ボタン

[OK]ボタンをクリックすると、ここでの設定が確定し、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が閉じます。[Cancel] (キャンセル)ボタンをクリックすると、ここでのボイス選択を取り消し元に戻した上でVOICE LIBRARYが閉じます。

⑨ Refresh (リフレッシュ)

MOTIF XF エディター VSTのVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)を開いた状態で、MOTIF XF6/7/8本体側でボイスストアを行なうと、MOTIF XF エディター VSTとMOTIF XF6/7/8本体のボイス名が一致しない状態になります。その場合、このボタンをクリックすることでVOICE LIBRARYでのボイス名表示を最新状態に更新します。

EQ Lo、Mi、Hi (パートEQ)

現在選択されているボイスのイコライザー調整をノブで行ないます。

Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

現在選択されているボイスのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

現在選択されているボイスの音量を設定します。

ARP (アルペジオ)

アルペジオ再生のオン/オフを切り替えます。

[AD/FW Part]タブを選択した場合

[AD/FW Part]タブ(②)を選択している場合、ボイスモードでのAD/FWパートのパラメーターを表示/編集します。

Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

AD/FWパートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

AD/FWパートの音量を設定します。

Output Select (アウトプットセレクト)

AD/FWパートの出力先を設定します。

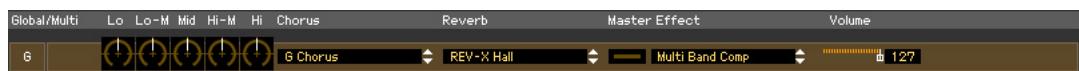
表示	出力される端子	ステレオ/モノラル
L&R	OUTPUT LとR	ステレオ
asL&R	ASSIGNABLE OUTPUT LとR	ステレオ
FW1&2	FW OUTPUT 1と2	ステレオ(1:L、2:R)
FW3&4	FW OUTPUT 3と4	ステレオ(3:L、4:R)
FW5&6	FW OUTPUT 5と6	ステレオ(5:L、6:R)
FW7&8	FW OUTPUT 7と8	ステレオ(7:L、8:R)
FW9&10	FW OUTPUT 9と10	ステレオ(9:L、10:R)
FW11&12	FW OUTPUT 11と12	ステレオ(11:L、12:R)
FW13&14	FW OUTPUT 13と14	ステレオ(13:L、14:R)
asL	ASSIGNABLE OUTPUT L	モノラル
asR	ASSIGNABLE OUTPUT R	モノラル
FW1	FW OUTPUT 1	モノラル
:	:	:
FW14	FW OUTPUT 14	モノラル
insL (ADパートのみ)	ボイスパートのEffect L	モノラル(Vocoderで使用します。)

ミキサー部 (Voice/Song/Pattern=SongまたはPatternの場合)



① Global (グローバル)

ソングまたはパターンモードで、よく使われるエフェクトなどのパラメーターをエディットする部分です。「G」をクリックすることにより、グローバルパラメーター群がエディット対象として選択されます。



NOTE ここで説明するパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「G」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の[F]マーク表示(29ページ)と連動します。



Lo, Lo-M, Mid, Hi-M, Hi (マスター EQ)

マスターイコライザーの各パラメーターをエディットします。

Chorus (コーラス)

コーラスのエフェクトのタイプを選択します。

Reverb (リバーブ)

リバーブエフェクトのタイプを選択します。

Master Effect (マスターエフェクト)

マスターエフェクトのオン/オフを設定し、マスターエフェクトのタイプを選択します。

Volume (ボリューム)

全体のボリュームを調節します。

② [Part 1-16]/[AD/FW Part]タブ

パート1～16かAD/FWパートかを選ぶタブです。下図は、パート1～16が選択されている状態です。



③ Part (パート)

[Part1-16]タブを選択した場合

[Part1-16]タブ(②)を選択している場合、パート1～16のパラメーターを表示/編集します。下図ではパート1が選択されています。

NOTE 各パートで選択されているボイスのパラメーター(エレメントパラメーターなど)をエディットすると、そのボイスをユーチャー・ボイスまたはミキシング・ボイスとしてストア(保存)するまでの間、またはエディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「1」～「16」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の[V]マーク表示(29ページ)と連動します。



Part (パートナンバー)

パートナンバーを表示します。

NOTE MOTIF XFエディターバージョンがONLINE(オンライン)の状態では、MOTIF XFエディターバージョンでの設定とMOTIF XF6/7/8本体での設定はお互い連動しますが、パートの選択については連動しない場合があります。MOTIF XFエディターバージョン側のパートナンバーとMOTIF XF6/7/8側のパートナンバーを合わせる必要がある場合は、それぞれの操作でパートナンバーを変更してください。

Mute/Solo (ミュート/ソロ)



① Mute (ミュート)

各パートのミュートのオン/オフを切り替えます。

② Solo (ソロ)

ソロパートを選びます。ソロは同時に1パートしかオンにできません。

Category、Bank、No.、Voice Name (カテゴリー、バンク、ボイスナンバー、ボイスネーム)

各パートのボイス(音色)を表示します。クリックするとVOICE LIBRARY(ボイスライブラリー)が表示され、ボイスを選択できます。VOICE LIBRARYについては、ボイスモードの場合と同じです。[15ページ](#)をご参照ください。

EQ Lo、Mi、Hi (パートEQ)

各パートのイコライザーをノブでエディットします。

Ins.FX (インサーションエフェクトスイッチ)

インサーションエフェクトのオン/オフを切り替えます。

NOTE インサーションエフェクトは、同時に8パートまでオンにできます。

Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

各パートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

各パートの音量を設定します。

Rcv Channel (レシーブチャンネル)

各パートのMIDI受信チャネルを設定します。

Output Select (アウトプットセレクト)

各パートの出力先を設定します。

表示	出力される端子	ステレオ/モノラル
L&R	OUTPUT LとR	ステレオ
asL&R	ASSIGNABLE OUTPUT LとR	ステレオ
FW1&2	FW OUTPUT 1と2	ステレオ(1:L、2:R)
FW3&4	FW OUTPUT 3と4	ステレオ(3:L、4:R)
FW5&6	FW OUTPUT 5と6	ステレオ(5:L、6:R)
FW7&8	FW OUTPUT 7と8	ステレオ(7:L、8:R)
FW9&10	FW OUTPUT 9と10	ステレオ(9:L、10:R)
FW11&12	FW OUTPUT 11と12	ステレオ(11:L、12:R)
FW13&14	FW OUTPUT 13と14	ステレオ(13:L、14:R)
asL	ASSIGNABLE OUTPUT L	モノラル
asR	ASSIGNABLE OUTPUT R	モノラル
FW1	FW OUTPUT 1	モノラル
:	:	:
FW14	FW OUTPUT 14	モノラル
drum	*	*

* エディット中のパートにノーマルボイスが割り当てられている場合、この表示は「L&R (dr)」となり、出力される端子は OUTPUT LとRでステレオ出力になります。エディット中のパートにドラムボイスが割り当てられている場合、この表示は「drum」となり、本体ボイスエディットモードのドラムキット各キーのOutput Selectで設定されている出力端子が有効になります。

NOTE L&R、FW1~14、FW1&2~FW13&14に設定されたパートの出力先は、Quick Setupでの設定により出力の仕方が変わります。詳しくはQuick Setupの項目([33ページ](#))をご参照ください。

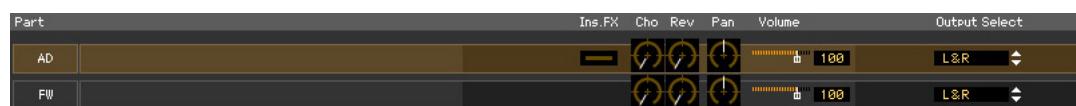
ARP (アルペジオ)

各パートでのアルペジオ再生のオン/オフを切り替えます。

NOTE 同時にアルペジオオンにできるパートは、最大4つまでです。

[AD/FW Part]タブを選択した場合

[AD/FW Part]タブ(**②**)を選択している場合、ソングまたはパターンモードでのAD/FWパートのパラメーターを表示/編集します。

**Ins.FX (インサーションエフェクト)**

インサーションエフェクトのオン/オフを切り替えます。ADパートの場合のみ表示されます。

Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

AD/FWパートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

AD/FWパートの音量を設定します。

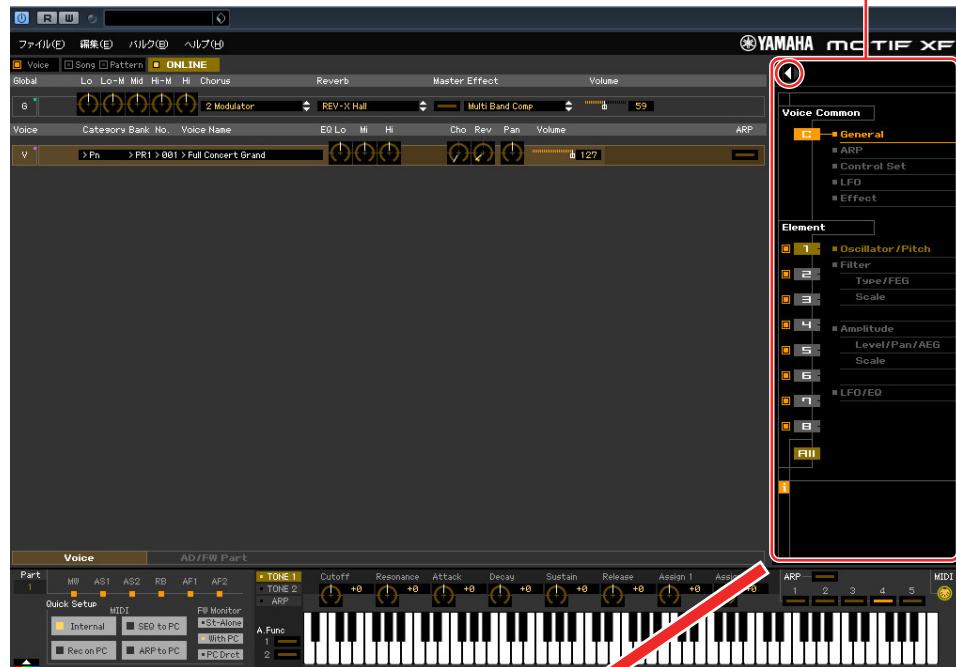
Output Select (アウトプットセレクト)

AD/FWパートの出力先を設定します。選択できる出力先は、ボイスモードでのAD/FWパートの場合と同じです([17ページ](#))。

パラメーターカテゴリー部 (Voice/Song/Pattern=Voiceの場合)

画面右上にある  をクリックすることにより、現在選択されているパートの、さらに詳しい設定ができる詳細パラメーター部を呼び出せます。詳細パラメーター部を呼び出すことで、パラメーターカテゴリー部は画面中央まで移動します。

パラメーターカテゴリー部

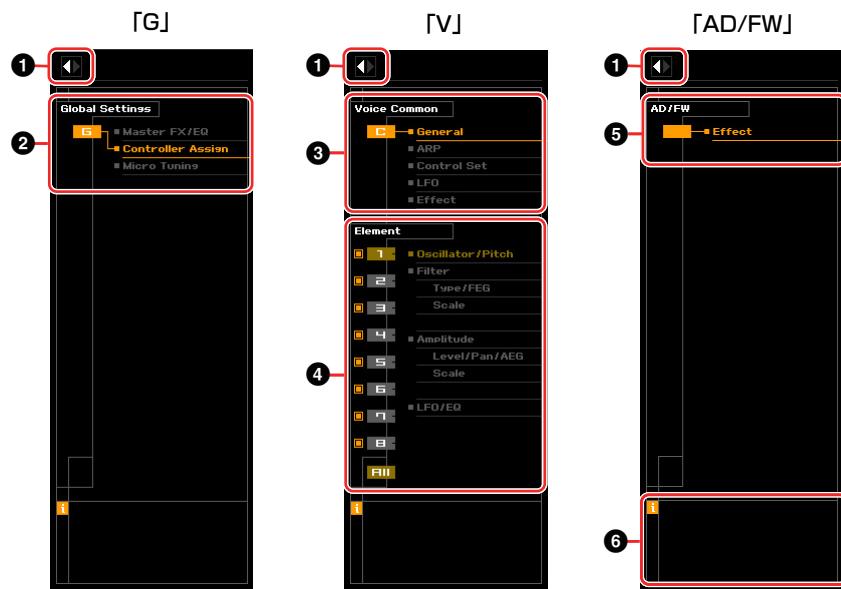


パラメーターカテゴリー部

詳細パラメーター部

ミキサー部で選択されたパートが、G、V、AD/FWパートのいずれかによって、パラメーターカテゴリー部で表示されるカテゴリーは下図のとおり、異なります。

「V」は[Voice]/[AD/FW Part]タブで[Voice]が選ばれている場合に、「AD/FW」は[Voice]/[AD/FW Part]タブで[AD/FW]が選ばれている場合にそれぞれ選択できます。「G」はタブ選択に関係なく、選択できます。



① オープン/クローズボタン



詳細パラメーター部の表示/非表示を行ないます。ボタンの左側が白色の場合 は、詳細パラメーター部が表示されていないことを示します。クリックすると、詳細パラメーター部を表示します。ボタンの右側が白色の場合 は、詳細パラメーター部が表示されていることを示します。クリックすると、詳細パラメーター部を隠します。詳細パラメーター部の表示/非表示は、<Ctrl> + <←→>、<Ctrl> + <→→> (Macの場合はコマンドキー + <←→>、コマンドキー + <→→>)でも切り替えられます。

② Global Settings (グローバル設定)

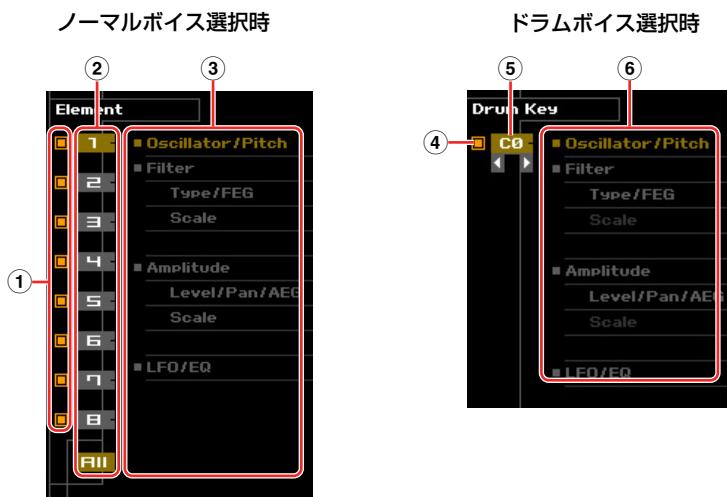
ミキサー部で「G」を選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するグローバルパラメータ一群が詳細パラメーター部に表示されます。

③ Voice Common (ボイスコモン)

ミキサー部で「V」を選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスコモンパラメータ一群が、詳細パラメーター部に表示されます。

④ Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「V」を選択しているときに表示されます。ノーマルボイスが選択されている場合は Element (エレメント)が表示され、ドラムボイスが選択されている場合はDrum Key (ドラムキー)が表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスエレメントパラメータ群、またはドラムキーパラメータ群が詳細パラメーター部に表示されます。



- ① エレメント用チェックボックス(ノーマルボイス選択時)
各エレメントをオン/オフします。

- ② [1]～[8]、[All]ボタン(ノーマルボイス選択時)

エディットするエレメントを選択します。[All]をクリックすると、詳細パラメーター部に「Element Quick Setting」画面が表示され、全エレメントの主なパラメーターを1つの画面でまとめてエディットできるようになります。

- ③ エレメントパラメーターカテゴリー (ノーマルボイス選択時)

エレメントパラメーターのカテゴリーが表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスエレメントパラメータ群が、詳細パラメーター部に表示されます。

- ④ ドラムキー用チェックボックス(ドラムボイス選択時)

各ドラムキーをオン/オフします。

- ⑤ ドラムキー (ドラムボイス選択時)

キー表示の下にある三角形表示をクリックすることにより、エディットするドラムキーを選択します。

- ⑥ ドラムキーパラメーターカテゴリー (ドラムボイス選択時)

ドラムキーパラメーターのカテゴリーが表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するドラムキーパラメータ群が、詳細パラメーター部に表示されます。

⑤ AD/FW

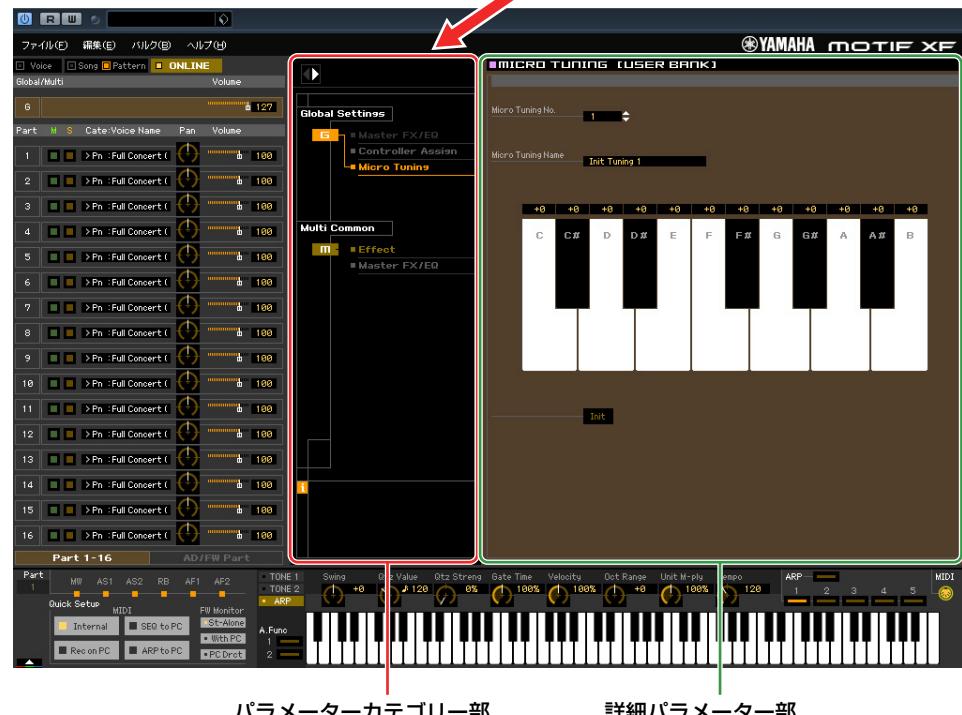
ミキサー部でAD/FW Partを選択しているときに表示されます。詳細パラメーター部にはエフェクト関連のパラメーターが表示されます。

⑥ i (インフォメーション表示)

マウスが指し示しているパラメーターやスイッチなどの詳しい情報を表示します。「i」をクリックすることで、インフォメーション表示のする/しないを切り替えられます。

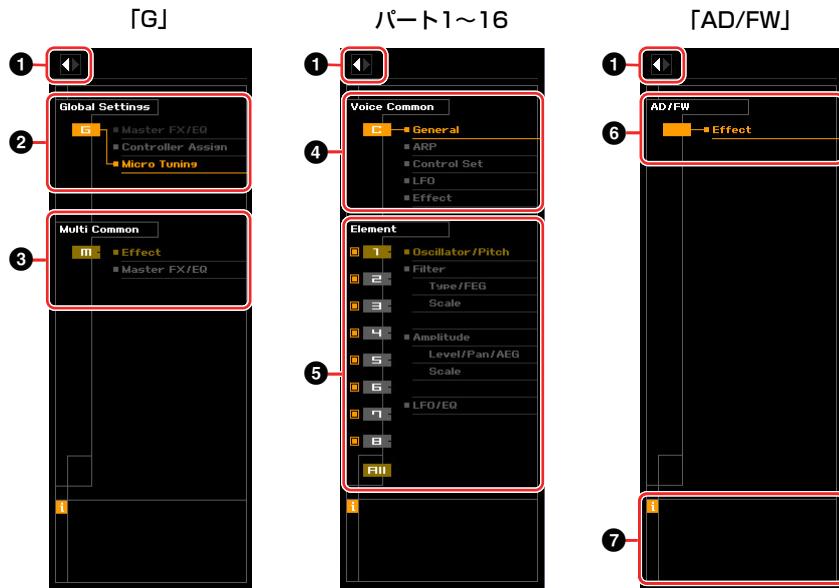
パラメーターカテゴリー部 (Voice/Song/Pattern=SongまたはPatternの場合)

画面右上にある  をクリックすることにより、現在選択されているパートの、さらに詳しい設定ができる詳細パラメーター部を呼び出せます。詳細パラメーター部を呼び出すことで、パラメーターカテゴリー部は画面中央まで移動します。



ミキサー部で選択されたパートが、1~16、AD/FWパートのいずれかによって、パラメーターカテゴリー部で表示されるカテゴリーは下図のとおり、異なります。

1~16は[Part 1-16]/[AD/FW Part]タブで[Part 1-16]が選ばれている場合に、「AD/FW」は[Part 1-16]/[AD/FW Part]タブで[AD/FW]が選ばれている場合にそれぞれ選択できます。「G」はタブ選択に関係なく、選択できます。



① オープン/クローズボタン



Voice/Song/Pattern=Voiceの場合([22ページ](#))と同じです。

② Global Settings (グローバル設定)

ミキサー部で「G」を選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するグローバルパラメータ群が詳細パラメーター部に表示されます。

③ Multi Common (マルチコモン)

ミキサー部で「G」列を選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するコモンパラメータ群が、詳細パラメーター部に表示されます。

④ Part Common (パートコモン)

ミキサー部でパート1~16のいずれかを選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するコモンパラメータ群およびボイスコモンパラメーターが、詳細パラメーター部に表示されます。

⑤ Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部でパート1~16のいずれかを選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスエレメントパラメータ群またはドラムキーパラメータ群が、詳細パラメーター部に表示されます。各部の名称と機能については、[Voice]/[Song]/[Pattern]=[Voice]の場合([23ページ](#))と同じです。

⑥ AD/FW

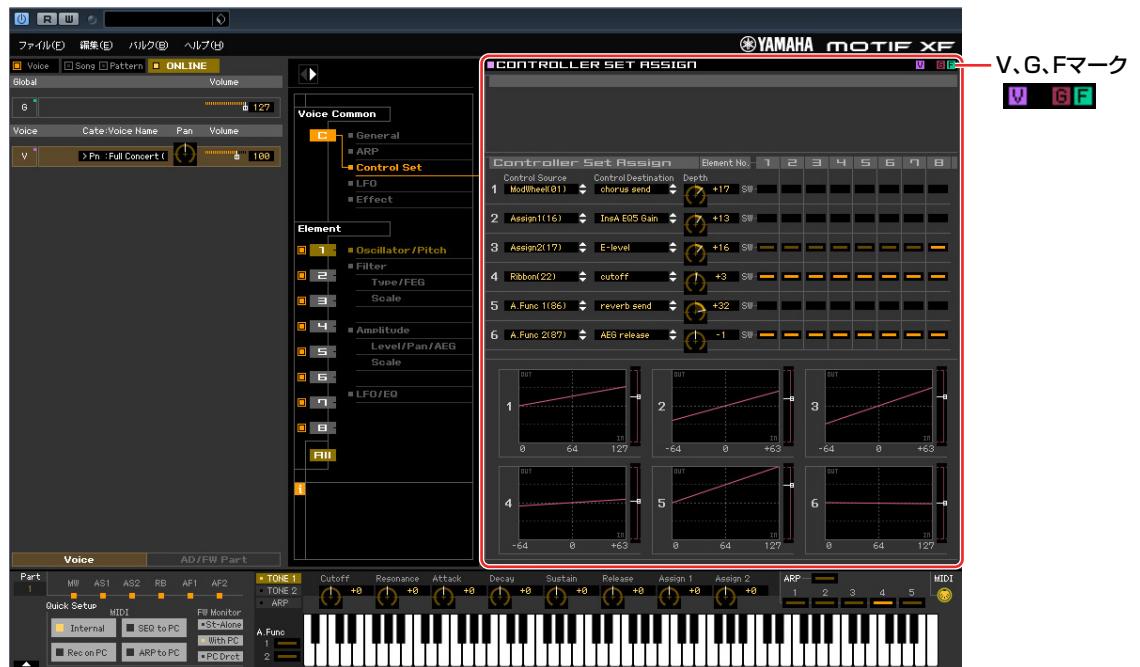
ミキサー部でAD/FW Partを選択しているときに表示されます。詳細パラメーター部にはエフェクト関連のパラメーターが表示されます。

⑦ *i* (インフォメーション表示)

マウスが指示しているパラメーターやスイッチなどの詳しい情報を表示します。「*i*」をクリックすることで、インフォメーション表示のする/しないを切り替えられます。

詳細パラメーター部 (Voice/Song/Pattern=Voiceの場合)

ミキサー部で選択されたボイスまたはグローバル設定の、詳細なパラメーター群を表示します。ここでは、パラメーター部に表示される各パラメーターに、どのようなパラメーター群が属するかを説明します。各パラメーターの説明については、MOTIF XF6/7/8本体に付属する取扱説明書をご参照ください。



エディット中の状態を示す3つのマーク

パラメーターをエディットすると画面右上に下記3種類のマークが表示されます。

- V** ボイスエディットの状態がユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)されていないことを示しています。ボイスのストア([48ページ](#))を実行することで表示が消えます。
- G** グローバル設定に関するエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。グローバルのストア([48ページ](#))を実行することで表示が消えます。
- F** パラメーターの種類に関係なく、エディットの状態がファイルとしてセーブ(保存)されていないことを示しています。

NOTE これら、V、G、Fのマークは、ミキサー部の「V」、「1」～「16」、「G」の右上に表示される小さな四角のマークと連動して表示されます。V、Gマークはストア(保存)を実行することで表示が消えます。Fマークとミキサー部の「G」の右上に表示される小さな四角のマークは、ファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。V、G、Fマーク、ミキサー部の「V」の右上に表示される小さな四角のマーク、「G」の右上に表示される小さな四角のマーク、これらすべてのマークはファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。

Global Settings (グローバルセッティング)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーで、下記のサブカテゴリーから構成されます。

Master FX/EQ (マスター効果/EQ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスモードでのマスター効果/EQに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [UTILITY] → [F3] → [SF1]/[SF2]で呼び出される画面上の、「Master FX」 / 「Master EQ」 のパラメーターグループに該当します。

Controller Assign (コントローラーアサイン)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーアサインに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [UTILITY] → [F3] → [SF3]で呼び出される画面上の、「Control」 のパラメーターグループに該当します。

Micro Tuning (マイクロチューニング)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマイクロチューニングに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [UTILITY] → [F3] → [SF4]で呼び出される画面上の、「Tuning」 のパラメーターグループに該当します。

Voice Common (ボイスコモン)

ミキサー部で「V」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する全エレメント/全ドラムキーに共通の設定を行ないます。Voice Common (ボイスコモン)は、下記のサブカテゴリーから構成されます。

General (ジェネラル)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスネームやボイスのピッチに関するパラメーターなど、さまざまなパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [F3]で呼び出される画面上の、「EG/EQ」 のパラメーターグループや、[VOICE] → [EDIT] → [F1] → [SF1]/[SF2]で呼び出される画面上の、「Name」 / 「Play Mode」 のパラメーターグループに該当します。

ARP (アルペジオ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にアルペジオに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [EDIT] → [F2]/[F3]で呼び出される画面上の、「ARP Main」 / 「ARP Other」 のパラメーターグループに該当します。なお、画面中央の「Individual ARP Parameters」にある、Bank/Category/Sub/Number/Nameと表記されているボックスをクリックすると、ARP LIBRARY (アルペジオライブラリー)画面が現われます。VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面([15ページ](#))と同様の使い方で、アルペジオタイプを選択できます。

Controller Set (コントローラーセット)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーセットに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [EDIT] → [F4]で呼び出される画面上の、「Control Set」 のパラメーターグループに該当します。

LFO (ローフリケンシーオシレーター)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にLFOに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [EDIT] → [F5]で呼び出される画面上の、「Com LFO」 のパラメーターグループに該当します。ドラムボイスには、このパラメーターはありません。

Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にエフェクトに関するパラメーターグループが表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [EDIT] → [F6]で呼び出される画面上の、「Effect」 のパラメーターグループに該当します。

Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「V」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。ノーマルボイスが選択されている場合はElementが、ドラムボイスが選択されている場合はDrum Keyが表示されます。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する各エレメントまたはドラムキーに固有の設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

NOTE Element (エレメント)表示の下に表示されているチェックボックス(1~8)、およびAllについて、[23ページ](#)をご参照ください。Drum Key (ドラムキー)表示の下に表示されているチェックボックス、およびドラムキー表示について、[23ページ](#)をご参照ください。

Oscillator/Pitch (オシレーター / ピッチ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にオシレーター / ピッチに関するパラメーター群が表示されます。

Filter (フィルター)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にフィルターに関するパラメーター群が表示されます。

Amplitude (アンプリチュード)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にアンプリチュードに関するパラメーター群が表示されます。

LFO/EQ (ローフリケンシーオシレーター / イコライザー)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にLFO/EQに関するパラメーター群が表示されます。

AD/FW

ミキサー部で「AD/FW」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスモードでのAD/FWパートに関する設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスモードでのAD/FWパートにかかるエフェクト関連のパラメーター群が表示されます。

詳細パラメーター部 (Voice/Song/Pattern=SongまたはPatternの場合)

ミキサー部で選択されたパートおよびパートに割り当てられているボイスの詳細なパラメーター群を表示します。ここでは、パラメーターカテゴリー部に表示される各パラメーターに、どのようなパラメーター群が属するかを説明します。各パラメーターの説明については、MOTIF XF6/7/8本体に付属する取扱説明書をご参照ください。



エディット中の状態を示す4つのマーク

パラメーターをエディットすると画面右上に下記4種類のマークが表示されます。

- V** ボイスエディットの状態がユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)されていないことを示しています。ボイスのストア([48ページ](#))を実行することで表示が消えます。
- M** マルチエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。ミキシングのストア([49ページ](#))を実行することで表示が消えます。
- G** グローバル設定に関するエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。グローバルのストア([48ページ](#))を実行することで表示が消えます。
- F** パラメーターの種類に関係なく、エディットの状態がファイルとしてセーブ(保存)されていないことを示しています。

NOTE これら、V、M、G、Fのマークは、ミキサー部の「1」～「16」、「G」の右上に表示される小さな四角のマークと連動して表示されます。V、M、Gマークはストア(保存)を実行することで表示が消えます。Fマークとミキサー部の「G」の右上に表示される小さな四角のマークは、ファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。V、G、M、Fマーク、パート「1」～「16」の右上に表示される小さな四角のマーク、「G」の右上に表示される小さな四角のマーク、これらすべてのマークはファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。

Global Settings (グローバルセッティング)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーで、下記のサブカテゴリから構成されます。

Controller Assign (コントローラーアサイン)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーアサインに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[SONG]または[PATTERN] → [MIXING] → [EDIT] → [F3]で呼び出される画面上の、「Ctrl Asgn」のパラメーター群に該当します。

Micro Tuning (マイクロチューニング)

パラメーター一部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマイクロチューニングに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[VOICE] → [UTILITY] → [F3] → [SF4]で呼び出される画面上の、「Tuning」のパラメーター群に該当します。

Multi Common (マルチコモン)

ミキサー部で「G」列を選択すると表示されるパラメーター部で、下記のサブカテゴリ一から構成されます。

Effect (エフェクト)

パラメーター一部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にソングまたはパターンモードでのエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[SONG]または[PATTERN] → [MIXING] → [EDIT] → [F5] → [SF3]/[SF4]で呼び出される画面上の、「Reverb」 / 「Chorus」のパラメーター群に該当します。

Master FX/EQ (マスターエフェクト/EQ)

パラメーター一部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にソングまたはパターンモードでのマスターエフェクト/EQに関するパラメーター群が表示されます。マスターエフェクト/EQについては、MOTIF XF6/7/8本体の[SONG]または[PATTERN] → [MIXING] → [EDIT] → [F2] → [SF2]/[SF3]で呼び出される画面上の、「Master FX」 / 「Master EQ」のパラメーター群に該当します。

Part Common (パートコモン)

ミキサー部で「1」～「16」のいずれかを選択すると表示されるパラメーター部で、下記のサブカテゴリ一から構成されます。

General (ジェネラル)

パラメーター一部でこれを選択すると、現在選択されているパートに関するパラメーター (エディットすることで画面右上に「M」マークが表示されるもの)や、パートに割り当てられているボイスに関するパラメーター (エディットすることで画面右上に「V」マークが表示されるもの)など、さまざまなパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

ARP (アルペジオ)

パラメーター一部でこれを選択すると、現在選択されているパートに割り当てられているアルペジオに関するパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[SONG]または[PATTERN] → [MIXING] → [EDIT] → エディットしたいパートのナンバー[1]～[16]ボタン → [F2]/[F3]で呼び出される画面上の、「ARP Main」 / 「ARP Other」のパラメーター群に該当します。なお、画面中央の「Individual ARP Parameters」にある、Bank/Category/Sub/Number/Nameと表記されているボックスをクリックすると、ARP LIBRARY (アルペジオライブラリー)画面が現われます。VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面(15ページ)と同様の使い方で、アルペジオタイプを選択できます。

RCV/Control Set (レシーブ/コントロールセット)

パラメーター一部でこれを選択すると、現在選択されているパートでのMIDIメッセージの受信に関するパラメーター群、およびコントロールセットに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。MOTIF XF6/7/8本体では、[SONG]または[PATTERN] → [MIXING] → [EDIT] → エディットしたいパートのナンバー[1]～[16]ボタン → [F6]で呼び出される画面上の、「RcvSwitch」のパラメーター群、および、[SONG]または[PATTERN] → [MIXING] → [F6] Vce Edit → [F4]で呼び出される画面上の、「Ctrl Set」のパラメーター群に該当します。

LFO (ローフリケンシーオシレーター)

パラメーター一部でこれを選択すると、現在選択されているパートに割り当てられているボイスのLFOに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。現在選択されているパートにドラムボイスが割り当てられている場合は、このパラメーターは無効です。

Effect (エフェクト)

パラメーター一部でこれを選択すると、現在選択されているパートでのインサーションエフェクトに関するパラメーター群や、全パートに共通にかかるシステムエフェクトに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「1」～「16」のいずれかを選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。現在選択されているパートにノーマルボイスが割り当てられている場合はElementが、ドラムボイスが割り当てられている場合はDrum Keyが表示されます。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する各エレメントまたはドラムキーに固有の設定を行ないます。

詳細は、[Voice]/[Song]/[Pattern]=[Voice]の場合と同じです([28ページ](#))。

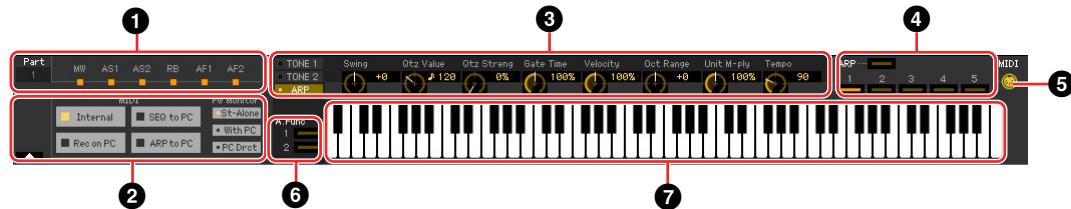
AD/FW

ミキサー部で「AD/FW」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ソングまたはパターンモードでのAD/FWパートに関する設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

Effect (エフェクト)

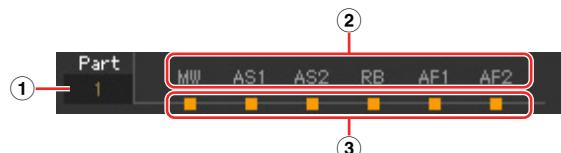
パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にソングまたはパターンモードでのAD/FWパートにかかるエフェクト関連のパラメーターグループが表示されます。

下部



① コントローラー表示

MOTIF XF6/7/8に装備されているコントローラーうち、どれがRCV/CONTROLLER SET ASSIGN画面にあるコントローラーセットのControl Source (コントロールソース)として設定されているかを表示しています。



① Part (パート)

現在どのパートのコントローラーセットの設定が表示されているかを示します。

② Control Source (コントロールソース)

左から順に、現在選択されているパート(①)のコントローラーセット 1~6のコントロールソース(コントローラー)を表示します。

表示名	コントロールソース名
PB	ピッヂペンドホイール
MW	モジュレーションホイール
AT	鍵盤のアフタータッチ
FC	フットコントローラー
FS	フットスイッチ
RB	リボンコントローラー
BC	プレスコントローラー
AS1	ASSIGN 1ノブ
AS2	ASSIGN 2ノブ
FC2	フットコントローラー2
AF1	ASSIGNABLE FUNCTION 1ボタン
AF2	ASSIGNABLE FUNCTION 2ボタン

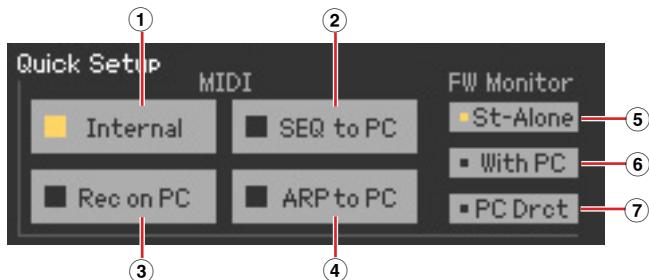
③ オン/オフ表示

こここのランプがオンの場合、該当するコントローラー (Control Source)に任意の機能(Control Destination)が割り当てられていることを示しています。オフの場合は機能が割り当てられていないことを示しています。

② Quick Setup (クイックセットアップ)

MOTIF XF6/7/8がソング/パターンモードのときの、外部接続に関するパラメーターの設定を、プリセットの中から選ぶことができます。①～④は本体のMIDIおよびシーケンサーの設定、⑤～⑦はIEEE1394ケーブルで接続している場合の本体のオーディオ出力の設定を変更します。

NOTE Quick Setupでは、MOTIF XF6/7/8本体の設定の表示や変更ができますが、設定をMOTIF XF エディター VST側では保存できません。



■ MIDI

下記の設定①～④は、MOTIF XF6/7/8本体ユーティリティモードのQuick Setup (クイックセットアップ)での設定と同じものです。

① Internal (インターナル)

MOTIF XF6/7/8単独でシーケンサー機能(ソング/パターン)を使う場合の設定です。

② SEQ to PC

MOTIF XF6/7/8本体のソング/パターンの再生データをコンピューターに送って、Cubaseシリーズに記録するための設定です。

③ Rec on PC

コンピューターのCubaseシリーズに、MOTIF XF6/7/8本体での鍵盤演奏を記録するための設定です。

④ ARP to PC

MOTIF XF6/7/8本体のアルペジオ再生データをコンピューターに送って、Cubaseシリーズに記録するための設定です。

■ FW Monitor (FWモニター)

⑤ St-Alone (スタンドアローン)

MOTIF XF6/7/8本体とコンピューターをIEEE1394ケーブルで接続していない場合、またはIEEE1394ケーブルで接続していてもDAWを使用していない場合の設定です。本体の音を、直接OUTPUT L/MONO、Rに出力するように内部結線が設定されます。

⑥ With PC

MOTIF XF6/7/8本体を、Cubaseシリーズのオーディオデバイスとして使用する場合の設定です。本体の音を直接OUTPUT L/MONO、Rに出力せず、Cubaseシリーズ、IEEE1394端子から出力するように内部結線が設定されます。この設定にすると、本体の音にCubaseシリーズ側のRecモニターをオフに設定してください。

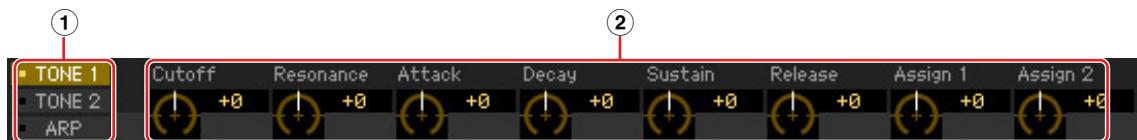
⑦ PC Drct (PCダイレクト)

MOTIF XF6/7/8本体の音をコンピューター上のCubaseシリーズに録音する場合の設定です。MOTIF XF6/7/8の音はCubaseシリーズに送られると同時に、レイテンシーなしでモニターできるよう、直接OUTPUT L/MONO、Rに出力されます。また、Cubaseシリーズの音はIEEE1394端子から出力するように内部結線が設定されます。このとき、モニターする本体の演奏音が2重にならないように、Cubaseシリーズ側のRecモニターをオフに設定してください。

NOTE FW Audio (FW オーディオ)での設定は、MOTIF XF エディター VSTを終了した後も本体に保存されています。「With PC」に設定した場合は、MOTIF XF エディター VSTを終了したり、IEEE1394 (FireWire)ケーブルを外した後も、本体の音はOUTPUT L/MONO、Rに出力しません。MOTIF XF エディター VST使用後に本体のみで使用するときは MOTIF XF6/7/8本体の設定をご確認ください。

③ Quick Edit Knob (クイックエディットノブ)

MOTIF XF6/7/8本体にあるノブと同じ働きをします。



① [TONE 1] / [TONE 2] / [ARP]ボタン

Knob 1~8(②)に、割り当てる機能を切り替えます。それぞれに割り当てる機能はMOTIF XF6/7/8本体パネルをご覧ください。

② Knob 1~8

割り当てられた機能の設定値を編集します。

④ ARP (アルペジオ)

アルペジオの設定(オン/オフおよび1~5の切替)をします。

⑤ MIDIモニター

 MIDI MIDIモニター機能をオン/オフします。このMIDI端子アイコンをオンすることにより、MOTIF XF6/7/8本体に入力されるMIDIノートオン/オフが、MOTIF XFエディターVST下部にある鍵盤イラストに反映されます。コンピューターに接続されたMIDIキーボードまたは、MOTIF XF6/7/8本体を演奏しながらMOTIF XFエディターVSTでの設定結果を確認したい場合に、このMIDIモニター機能を使います。

⑥ [A.Func] (アサインブルファンクション)ボタン

ノーマルボイスエレメントのOscillator/Pitch (オシレーター/ピッチ)画面にあるXA Controlパラメーターの設定値「All AF off」「AF1 on」「AF2 on」に関連するボタンです。詳細は、MOTIF XF6/7/8本体付属の取扱説明書をご参照ください。

⑦ 鍵盤イラスト

クリックまたはドラッグされた鍵盤に該当するノートオン/オフのMIDIメッセージは、エディター設定画面(40ページ)のMIDI OUTで設定されたポート経由で、コンピューター外部に送られます。

NOTE 鍵盤をクリックしたときのベロシティーは、ファイルメニューの「エディター設定」で呼び出されるSetup (セットアップ)画面のKeyboard Velocity (42ページ)で設定します。

NOTE ドラムボイスをエディットしている場合、Windowsの場合は右クリック、Macの場合は<control>キー+クリックするとドラムキーの初期化ができます。「キーの初期化」をクリックすると、ウェーブフォーム以外のドラムキーの設定が初期化され、「キーの初期化(with Wave)」をクリックすると、ウェーブフォームも含めたドラムキーの設定が初期化されます。



MOTIF XFエディター VSTの基本操作

MOTIF XFエディター VSTの基本的な操作について説明します。

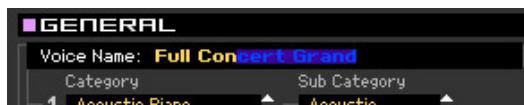
ボイス名を編集する

VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)、GENERAL (ジェネラル)画面、Store (ストア)画面でボイス名の編集ができます。

VOICE LIBRARY (15ページ)では、ユーザーVoicesまたはミキシングVoicesを選んでクリックすると、Voices名が編集できるようになります。編集後は、<Enter>キー (Macの場合は<return>キー)を押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確定します。<Esc>キーを押せば編集結果をキャンセルできます。

Natural Grand S6	Acoustic	---	Normal User 1	1
Full Concert Grand	Acoustic	---	Normal User 4	13
Concert Grand Piano	Acoustic	---	Normal GM	1
Ballad Key	Layer	Keyboard	Normal Preset 1	10
80s Layer	Layer	Keyboard	Normal Preset 1	11

GENERAL画面(下図)とStore画面(48ページ)では、「Voice Name」と表示されているテキスト入力ボックスにカーソルを置くことで、自由にVoices名を編集できます。編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確定します。



ボイスを探す/アルペジオタイプを探す



VOICE LIBRARY画面(15ページ)、ARP LIBRARY画面の下にある検索ボックスにキーワードを入れることにより、それぞれVoices、アルペジオタイプを探し出すことができます。また、インポート画面(38ページ)の下にある検索ボックスも、インポートしたいVoicesを探すために使えます。

数値を入れる

127

上図のような数値ボックスをダブルクリックすると、数値入力が可能になります。数値編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確定します。<Esc>キーを押せば編集結果をキャンセルできます。また数値ボックスをクリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。

Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

Macでは、コマンドキーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

NOTE パラメーターによっては、マウスによる数値編集だけ可能で、数値ボックスをダブルクリックしても数値入力ができない場合があります。

パラメーターの設定値を選ぶ



パラメーターのボックスをクリックするとリストボックスが表示されるので、その中から設定値を選びます。また、[▲]/[▼]ボタンをクリックすると前の値/次の値に変わります。

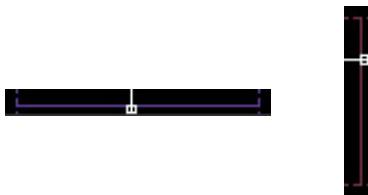
ノブで数値を変更する



図のようなノブでは、ドラッグしたりクリックすることでパラメーター値を編集できます。クリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。細かい設定をするには、<Shift>キーを押しながらドラッグします。

Setup (セットアップ)画面([40ページ](#))のKnob Guideパラメーター や Knob Mouse Controlパラメーターを設定することで、ノブの操作方法を変更できます。Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macでは、コマンドキーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

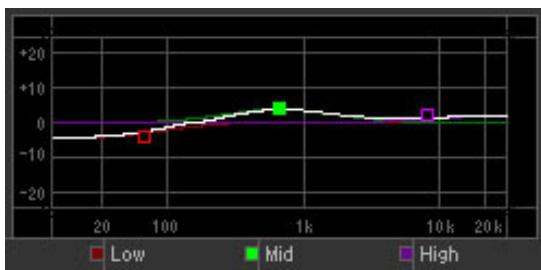
スライダーで数値を変更する



図のようなスライダーでは、ドラッグしたりクリックしたりすることでパラメーター値を編集できます。クリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。細かい設定をするには、<Shift>キーを押しながらドラッグします。

Setup (セットアップ)画面([40ページ](#))のSlider Mouse Controlパラメーターを設定することで、スライダーの操作方法を変更できます。Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macでは、コマンドキーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

グラフ上で数値を変更する

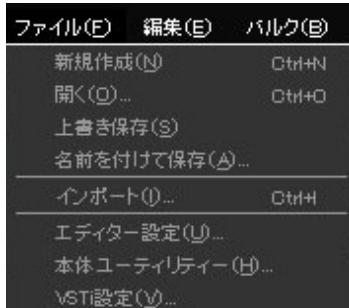


図のようなグラフでは、「□」をドラッグすることでパラメーター値を編集できます。

Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で「□」をクリックすると、クリックされた「□」の値が初期値に戻ります。<Ctrl>キーを押した状態でグラフ内の「□」以外の部分をクリックした場合は、グラフ全体が初期化されます。Macでは、コマンドキーを押した状態で「□」をクリックすると、クリックされた「□」の値が初期値に戻ります。コマンドキーを押した状態でグラフ内の「□」以外の部分をクリックした場合は、グラフ全体が初期化されます。

メニュー

[ファイル]メニュー



新規作成

現在開いているファイルを閉じ、ミキシングやボイスの設定が初期状態の新しいファイルを開きます。

開く...

既存のファイルを開きます。選択できるファイル形式は、以下のとおりです。

- MOTIF XF Editor Files (.X3E)
- MOTIF XF All Files (.X3A)
- MOTIF XS Editor Files (.XOE)
- MOTIF-RACK XS Editor Files (.X1E)
- M06/M08 Multi Part Editor Files (.M4E)
- MOTIF ES6/7/8 Multi Part Editor Files (.M4E)
- MOTIF-RACK ES Multi Part Editor Files (.M3E)

注記 MOTIF XFエディターVST上で編集できるのは、1ファイルだけです。そのため、「新規作成」やファイルの「開く」を実行すると、現在編集中のミキシングデータやボイスデータは消えてしまいます。大切なデータは、ファイルとして保存してください。

上書き保存

開いているファイルを上書き保存します。

名前をつけて保存...

ファイルに名前をつけて保存します。既存のファイルを別名で保存することができます。選択できるファイルの種類は、MOTIF XF Editor (.X3E)だけです。

インポート

他のファイルからボイスデータをインポートします。

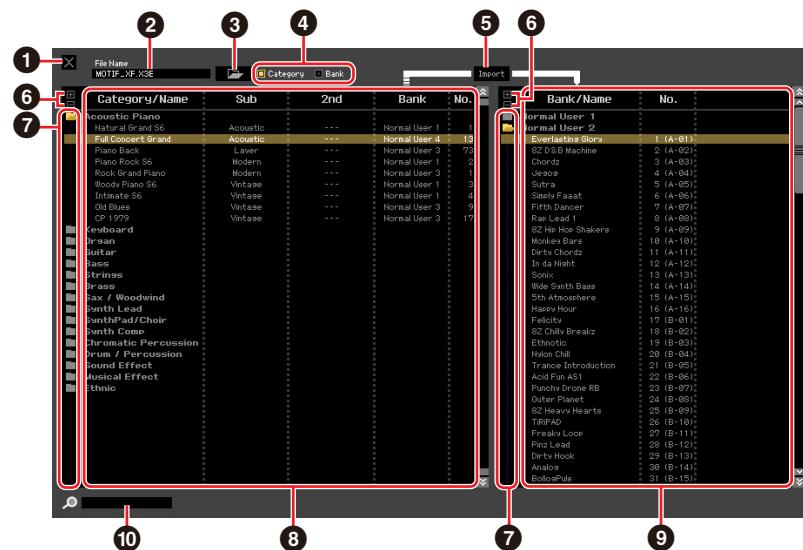
まずファイル選択ボタン(③)をクリックし、インポートするボイスデータを含んだファイルを呼び出します。インポート元のファイル内容表示(⑧)上で、インポートするデータを選択します。その後、インポート先のファイル内容表示(⑨)上で、インポート先となるMOTIF XFエディターVSTのボイスナンバー/ボイスバンクを選択します。

一度にインポートできるデータは、1ボイス(バンク/カテゴリー)、複数ボイス(バンクの場合のみ)、1フォルダー(バンクの場合のみ)です。1ボイスをインポートする場合は、インポート先も1ボイスナンバーを選択します。複数ボイスをインポートする場合は、インポート先で選択した1ボイスナンバーを先頭に、複数ボイスがインポートされます。フォルダーごとインポートする場合は、インポート先も1フォルダー(バンクの場合のみ)を選択する必要があります。

最後に[Import]ボタン(⑤)をクリックすると、インポートが実行されます。

選択できるファイル形式は以下のとおりです。

- MOTIF XF Editor Files (.X3E)
- MOTIF XF All Files (.X3A)
- MOTIF XF All Voice Files (.X3V)
- MOTIF XS Editor Files (.XOE)
- MOTIF-RACK XS Editor Files (.X1E)
- MO6/MO8 Voice EditorおよびMOTIF ES6/7/8 Voice Editor Files (.W7E)
- MO6/MO8 Multi Part Editor Files (.M4E)
- MOTIF-RACK ES Multi Part Editor Files (.M3E)
- MOTIF ES6/7/8 Multi Part Editor Files (.M4E、.M2E)
- MOTIF-RACK ES Voice Editor Files (.W9E)
- MOTIF XS ALL Files (.XOA)
- MOTIF XS ALL Voice Files (.XOV)
- S90 XS/S70 XS Editor Files (.X2E)
- S90 XS/S70 XS All (.X2A)
- S90 XS/S70 XS All Voice (.X2V)



① [×](終了)ボタン

この画面から抜けてインポートを終了します。

② File Name (ファイルネーム)

現在開いているファイルの名前を表示します。

③ ファイル選択ボタン

クリックするとファイルを選択するダイアログボックスを表示します。

④ [Category](カテゴリー)/[Bank](バンク)チェックボックス

ファイル内容表示(⑧)でカテゴリー別に表示するかバンク別に表示するか選択します。

⑤ [Import](インポート)ボタン

ファイル内容表示(⑧)で選択したデータを、 MOTIF XFエディター VST内容表示(⑨)で選択した場所にインポートします。

■ NOTE [Import]ボタンを使わなくても、インポート元のファイル(⑧)をドラッグして、インポート先(⑨)にドラッグすることで、インポートできます。

■ NOTE ノーマルボイスをユーザードラムボイスバンクにインポートすることはできません。同様に、ドラムボイスをユーザーノーマルボイスバンクにインポートすることはできません。また、インポート先としてプリセットボイスバンクを設定することはできません。

⑥ [+]/[-]ボタン

[+]ボタンをクリックすると、ファイル内容表示(⑧)、 MOTIF XFエディター VST内容表示(⑨)で、カテゴリーやバンクの内容をすべて表示します。

[−]ボタンをクリックすると、ファイル内容表示(⑧)、 MOTIF XFエディター VST内容表示(⑨)で、カテゴリーやバンクの内容をすべて隠します。

⑦ フォルダー

クリックすると、ファイル内容表示(⑧)、 MOTIF XFエディター VST内容表示(⑨)で、カテゴリーやバンクの内容を表示したり隠したりします。

⑧ インポート元のファイル内容表示

ファイル選択ボタン(③)をクリックして選択したファイル内にあるボイスまたはフォルダー (バンク/カテゴリー)を表示します。ここで、インポートするボイス/フォルダーを選択します。

Windowsの場合は右クリック、 Macの場合は<control>キー+クリックするとメニューを表示して、全フォルダーを開く、全フォルダーを閉じる、カテゴリー表示にする、バンク表示にするなどの操作ができます。

⑨ インポート先(MOTIF XFエディター VST)のファイル内容表示

現在編集中のMOTIF XFエディター VSTファイル内にあるボイス/バンクを表示します。ここで、インポート先のボイス/バンクを選択します。

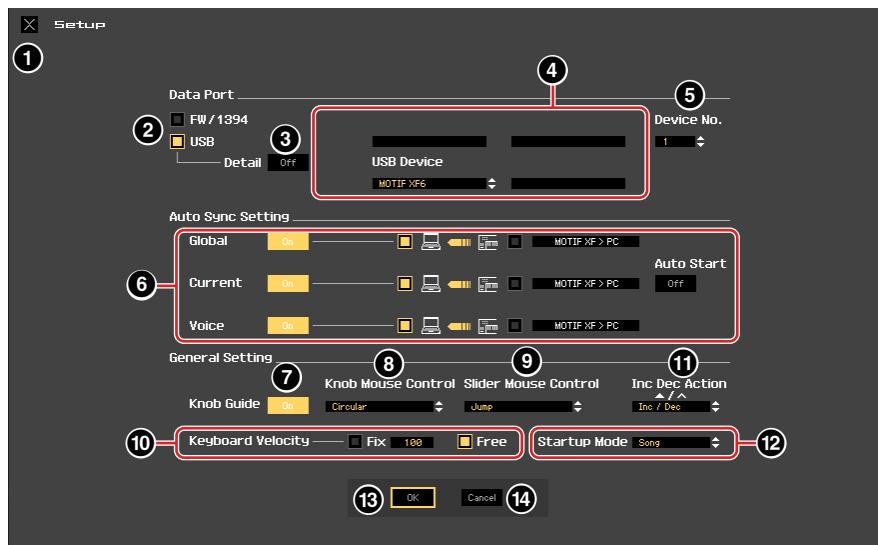
Windowsの場合は右クリック、 Macの場合は<control>キー+クリックするとメニューを表示して、全フォルダーを開く、全フォルダーを閉じるなどの操作ができます。

⑩ 検索ボックス

インポート元のデータを名前で検索します。

エディター設定

MOTIF XFエディターVSTの設定を行ないます。画面上のすべての設定が済んだら、[OK]ボタンをクリックします。



① [×](終了)ボタン

設定を反映せずに終了します。[Cancel]ボタン(⑭)と同じです。

② [FW/1394]/[USB] チェックボックス

MOTIF XF6/7/8本体と通信するMIDIポートの種類を選択します。

③ [Detail] (ディテール)ボタン

[FW/1394]/[USB] チェックボックス(②)でUSB接続を選択した場合、[Detail]ボタンをOnにすることにより、MOTIF XFエディターVSTが使用するMIDI入出力ポートを個別に設定できます。ポート名をコンピューター上やCubaseシリーズ上などで変更した場合は、この設定を行なう必要があります。ポート名を変更していない場合は、[Detail]ボタンはOffのままで構いません。

④ MIDI

MOTIF XF6/7/8本体と通信するMIDIポートを選択します。

USB接続の場合で[Detail]ボタン(③)をOffに設定している場合、左上の欄で「Yamaha USB 0」や「MOTIF XF6 (MOTIF XF7、MOTIF XF8)」などと表示されたMOTIF XF6/7/8のポートを設定してください。USB接続の場合で[Detail]ボタン(③)をOnに設定している場合、MIDI InはMOTIF XF6/7/8のポート4を、MIDI OutはMOTIF XF6/7/8のポート1とポート4を選びます。IEEE1394ケーブルで接続している場合、上側の欄はMIDIポートの設定、下側の欄はFW Deviceの設定になります。FW Deviceの設定では、設定したMOTIF XF6/7/8の機種名を選択し、MIDIポートの設定では、IEEE1394ケーブルで接続しているときに設定したMOTIF XF6/7/8のMIDIポートを選択してください。

■ NOTE ポート名の先頭に「!」マークが表示される場合があります。これはMOTIF XFエディターVSTで前回使用したポートが見つからない、またはMOTIF XFエディターVSTで必要となるポートが一部しか設定されていないことを示しています。ホストアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。

■ NOTE ここで設定とは別に、あらかじめCubaseシリーズ側のポート設定をする必要があります。詳しくは、Cubaseシリーズの取扱説明書をご参照ください。

■ NOTE ここでポートの設定とは別に、MOTIF XF6/7/8本体側もMIDIメッセージの入出力の設定をUSB接続にするか、IEEE1394ケーブルを使った接続にするか、MOTIF XFエディターVSTと合わせる必要があります。MOTIF XF6/7/8のユーティリティーモードのMIDIに関する設定をする画面で設定してください。詳しくはMOTIF XF6/7/8本体の取扱説明書をご参照ください。

⑤ Device No. (デバイスナンバー)

MOTIF XF6/7/8本体のユーティリティーモードで設定したDevice No.と同じ番号を設定します。

本体のDevice No.の設定が「All」のときは、「1」を設定してください。

⑥ Auto Sync Setting (オートシンク セッティング)

MOTIF XF エディター VSTをOFFLINE (オフライン)状態からONLINE (オンライン)状態に切り替えるときの、MOTIF XF6/7/8本体とのデータ同期の方法を設定します。実際の同期は、[OFFLINE]ボタンをクリックしたときやMOTIF XFエディター VSTを起動したとき、新しいファイルを開いたときなどに自動的に表示されるAuto Sync (オートシンク)画面上で行なわれます。

Global (グローバル)

グローバルデータ([3ページ](#))を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

Current (カレント)

カレントデータ([3ページ](#))を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

Voice (ボイス)

ユーザーボイスデータ([3ページ](#))を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

Auto Start (オートスタート)

Onに設定すると、下記条件でAuto Sync (オートシンク)画面が開いたときに、データ同期が自動的に開始されます。

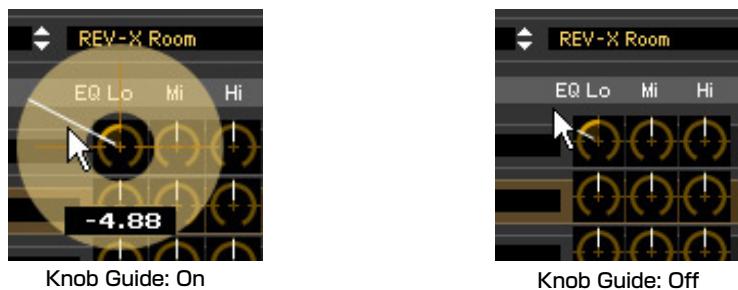
- MOTIF XF6/7/8本体ユーティリティモードでのMIDI IN/OUT設定やコンピューターでのポート設定、ケーブルによる接続が正しく行なわれている状態で、MOTIF XFエディター VST画面上の[OFFLINE]ボタンをクリックしたとき
- ケーブル接続が正しく行なわれている状態で、MOTIF XF本体6/7/8やコンピューターでの設定が、正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- MOTIF XF6/7/8本体やコンピューターでの設定が正しく行なわれている状態で、ケーブル接続が正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- MOTIF XF6/7/8本体やコンピューターでの設定が正しく行なわれている状態で、MOTIF XFエディター VSTを起動したとき

■ NOTE Auto Sync画面([52ページ](#))でも、Auto Sync Setting (オートシンクセッティング)の設定ができます。ここでAuto Sync Settingの設定と連動しています。

注記 Auto Startをオンにすると、決められたタイミング([52ページ](#))でデータ同期が自動的に開始されるため、受信する側で選択中のデータは、上書きされて消えてしまいます。大切なデータは、コンピューター上でファイルとして保存するか、MOTIF XF6/7/8本体に保存しておきましょう。

⑦ Knob Guide (ノブガイド)

ノブを操作中にガイドを表示するかどうかを設定します。



⑧ Knob Mouse Control (ノブマウス コントロール)

右図のようなノブの操作方法を設定します。



Circular (サークュラー)

ノブ操作エリア内のどこをクリックしても、数値がクリックした場所にジャンプします。また、そこからノブの形にそって円を描くようにドラッグすることにより、数値をコントロールします。

Relative Circular (リレーティブ サークュラー)

クリックしてもジャンプせず、現在の値からノブの形にそって円を描くようにドラッグすることにより、数値をコントロールします。

Linear (リニア)

ノブ操作エリアでドラッグするとマウスカーソルが消え、上、または右に移動すると値が増え、下または左に移動すると値が減ります。

⑨ Slider Mouse Control (スライダーマウス コントロール)

右図のようなスライダーの操作方法を設定します。

Jump (ジャンプ)

つまみ以外のスライダーバー上をクリックすると、クリックした位置につまみがジャンプします。



Touch (タッチ)

つまみをドラッグすることによりスライダーを動かします。つまみ以外のスライダーバー上をクリックしてもつまみは移動しません。

Ramp (ランプ)

つまみ以外のスライダーバー上をクリックすると、クリックしている間だけつまみが移動します。

Relative (リレーティブ)

つまみ以外のスライダーバー上をドラッグするとマウスカーソルが消え、左右に動かすことにより数値をコントロールします。現在の値から相対的に移動します。

⑩ Keyboard Velocity (キーボードベロシティー)

鍵盤イラスト(34ページ)をクリックしたときに出力される、MIDIノートのベロシティーを設定します。[Fix]をオンにした場合、ベロシティーは一定の値に固定されます。固定されるベロシティー値は、[Fix]の横の数値ボックスで設定できます。また、[Free]をオンにした場合、クリックする鍵盤の上下の位置によって、ベロシティーの値は変更されます。下の位置をクリックするほど値は大きくなります。

⑪ Inc/Dec Action (インク/デックアクション)

下図のようなパラメーターBOXにある[▲]/[▼]/[Λ]/[∨]ボタンの動作を設定します。



Inc/Inc:

[▲]は数値の1つ増加、[Λ]は1つ下の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

Inc/Dec:

[▲]は数値の1つ増加、[Λ]は1つ上の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

Dec/Inc:

[▲]は数値の1つ減少、[Λ]は1つ下の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

Dec/Dec :

[▲]は数値の1つ減少、[Λ]は1つ上の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

⑫ Startup Mode (スタートアップモード)

VSTインストゥルメントからMOTIF XF エディター VSTを新規で起動したときのモードを設定します。

Voice (ボイス)

MOTIF XF エディター VSTがボイスモードで起動します。

Pattern (パターン)

MOTIF XF エディター VSTがパターンモードで起動します。

Song (ソング)

MOTIF XF エディター VSTがソングモードで起動します。

NOTE インストゥルメントトラックからMOTIF XF エディター VSTを新規に起動したときは、ボイスモードで起動します。

NOTE メディアベイからMOTIF XF エディター VSTを新規に起動したときは、選択したVSTPresetに保存されているモードで起動します。

⑬ [OK]ボタン

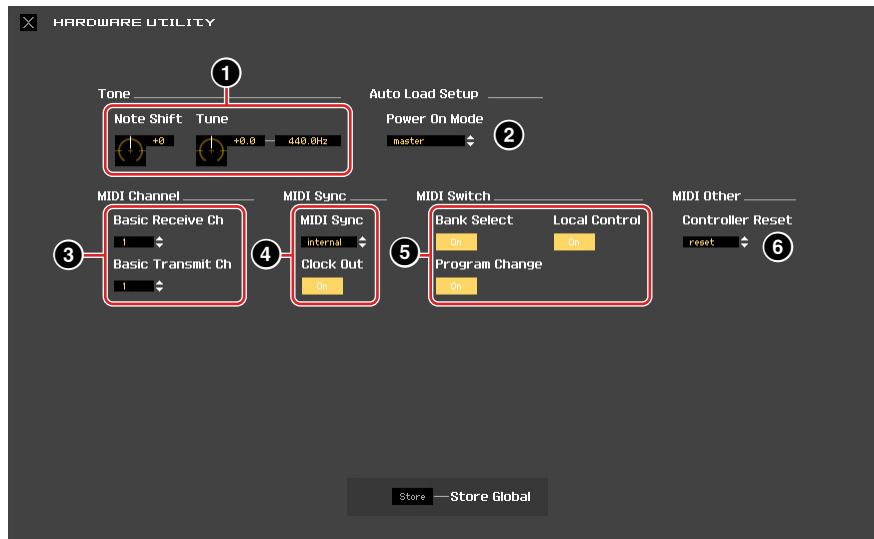
設定を反映して終了します。

⑭ [Cancel](キャンセル)ボタン

設定を反映せずに終了します。[×](終了)ボタン(①)と同じです。

本体ユーティリティ設定

このメニューを選んで呼び出されるHARDWARE UTILITY (ハードウェアユーティリティー)画面上で、MOTIF XF6/7/8本体のユーティリティモードにおける設定を行ないます。画面上に表示されている各パラメーターをエディットすることで、MOTIF XF6/7/8本体の該当パラメーターも同期して値が変更されます。画面下の[Store]をクリックすることで、変更された値がグローバルデータとしてストア(保存)されます。



MOTIF XFエディターVST(上記画面)	MOTIF XF6/7/8本体
① Tone	Note Shift
	[UTILITY] → [F1] General → [SF1] Play
② Auto Load Setup	Tune
	[UTILITY] → [F1] General → [SF1] Play
③ MIDI Channel	Power On Mode
	[UTILITY] → [F1] General → [SF4] AutoLoad
④ MIDI Sync	Basic Receive Ch
	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
⑤ MIDI Switch	Basic Transmit Ch
	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
⑥ MIDI Other	MIDI Sync
	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
④ MIDI Sync	Clock Out
	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
	Bank Select
⑤ MIDI Switch	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
	Program Change
	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
⑥ MIDI Other	Local Control
	[UTILITY] → [F5] Control → [SF2] MIDI
	Controller Reset
[Store] — [Store Global]	

VSTi設定

このメニューを選んで呼び出されるVSTi Setup (VSTi設定)画面上で、MOTIF XF6/7/8本体からのオーディオ信号をどのオーディオポート経由でCubaseシリーズに送信するかを設定します。

IEEE1394 (FireWire) ケーブルでコンピューターと接続している場合は、AUTOボタンをクリックすると自動的にオーディオポートを設定できます。Clear (クリア) ボタンをクリックすると、すべてのオーディオポートが未接続になります。

USBケーブルでコンピューターと接続している場合は、MOTIF XF6/7/8とオーディオ接続しているオーディオインターフェースのオーディオ入力ポートを選択します。



[編集]メニュー

ボイスモードの場合		ソングまたはパターンモードの場合	
編集(E)	パルク(B)	ヘルプ(H)	
元に戻す(U)	Ctrl+Z	元に戻す(U)	Ctrl+Z
やり直し(R)	Ctrl+Y	やり直し(R)	Ctrl+Y
コピー(C)	Ctrl+C	コピー(C)	Ctrl+C
貼り付け(P)	Ctrl+V	貼り付け(P)	Ctrl+V
ボイスの初期化(N)...	Del	ミキシングの初期化(O)...	Ctrl+Del
グローバルのストア		パートボイスの初期化(N)...	Del
ボイスのストア(S)...		グローバルのストア	
<input type="checkbox"/> ボイスコンペア(V)	Ctrl+P	ミキシングのストア	
		ボイスのストア(S)...	
		<input type="checkbox"/> ミキシングコンペア(M)	Ctrl+M
		<input type="checkbox"/> ボイスコンペア(V)	Ctrl+P

元に戻す

1つ前の操作を取り消します。取り消しできない場合は、メニュー項目は選択できません。

やり直し

[元に戻す]を実行する前の状態に戻します。[元に戻す]を実行した数だけ[やり直し]できます。[やり直し]できないときは、メニュー項目は選択できません。

コピー

選択している文字列、ボイスデータ、パラメーターをコピーします。コピーできないときは、メニュー項目は選択できません。

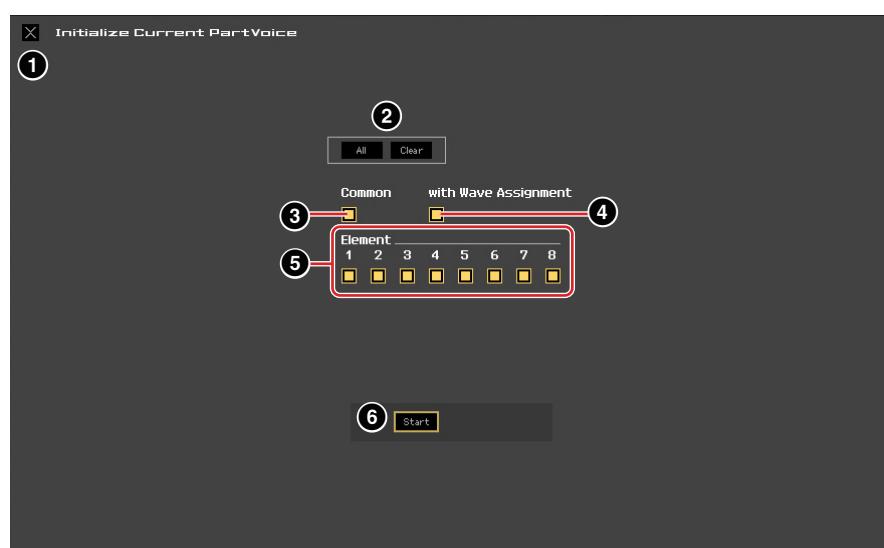
貼り付け

コピーした文字列、ボイスデータ、パラメーターを貼り付けます。貼り付けできないときは、メニュー項目は選択できません。

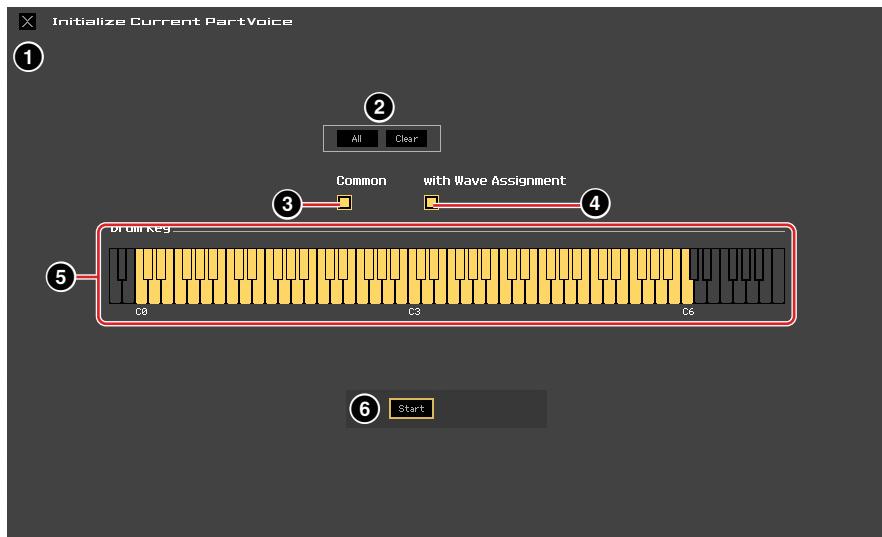
ボイスの初期化(ボイスモード)/パートボイスの初期化(ソングまたはパターンモード)

現在エディット中のボイスの初期化を行ないます。画面上のすべての設定をしたあと、[Start]ボタンをクリックすることで、初期化を実行します。

エディット中のボイスがノーマルボイスの場合



エディット中のボイスがドラムボイスの場合



① [×](終了)ボタン

初期化を行なわずに画面を閉じます。

② [All](オール)/[Clear](クリア)ボタン

All: すべてのパラメーターを初期化対象とします。

Clear: すべてのパラメーターを初期化対象から外します。

③ [Common](コモン)チェックボックス

オンに設定すると、現在選択されているボイスの全コモンパラメーター (ボイスモードの場合はVoice Common、ソングまたはパターンモードの場合はPart Common)を初期化します。

④ with Wave Assignment

オンに設定すると、選択したエレメントに割り当てられていたウェーブフォームの設定を初期化します。

⑤ Element (エレメント) [1]~[8] または Drum Key (ドラムキー) C0~C6

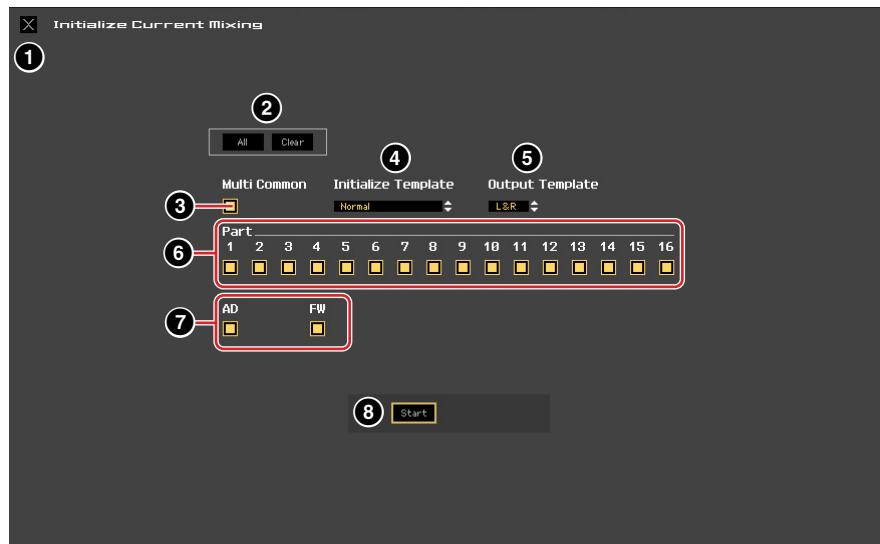
エディット中のボイスがノーマルボイスの場合、ここでオンに設定したエレメントの全パラメーターを初期化します。エディット中のボイスがドラムボイスの場合、ここでオンに設定したドラムキーの全パラメーターを初期化します。

⑥ [Start] (スタート)ボタン

設定したパラメーターを初期化して終了します。

ミキシングの初期化(ソングまたはパターンモードのみ)

ミキシングの初期化を行ないます。画面上のすべての設定をしたあと、[Start]ボタンをクリックすることで、初期化を実行します。



① [X](終了)ボタン

初期化を行なわずに画面を閉じます。

② [All](オール)/[Clear](クリア)ボタン

All: すべてのパラメーターを初期化対象とします。

Clear: すべてのパラメーターを初期化対象から外します。

③ [Multi Common](マルチコモン)チェックボックス

オンに設定すると、Multi Common (マルチコモン)のすべてのパラメーターを初期化します。

④ Initialize Template (イニシャライズテンプレート)

初期化のテンプレートを選択します。

Normal: 通常の初期化を行ないます。

GM: GM(ジェネラルMIDI)対応の音源として初期化を行ないます。

Contemporary R&B ~ TurkishPop: 各タイトルの目的に沿った設定を行ないます。

⑤ Output Template (アウトプットテンプレート)

ソングまたはパターンモードでの各パートの出力先を、「L&R」か「FW」のどちらかに設定します。

⑥ Part [1]～[16] (パート[1]～[16])チェックボックス

オンに設定したパートのすべてのパラメーターを初期化します。

⑦ [AD]/[FW]チェックボックス

コモンエディットのAD/FWパートに関する設定を初期化します。

⑧ [Start]ボタン

設定したパラメーターを初期化して終了します。

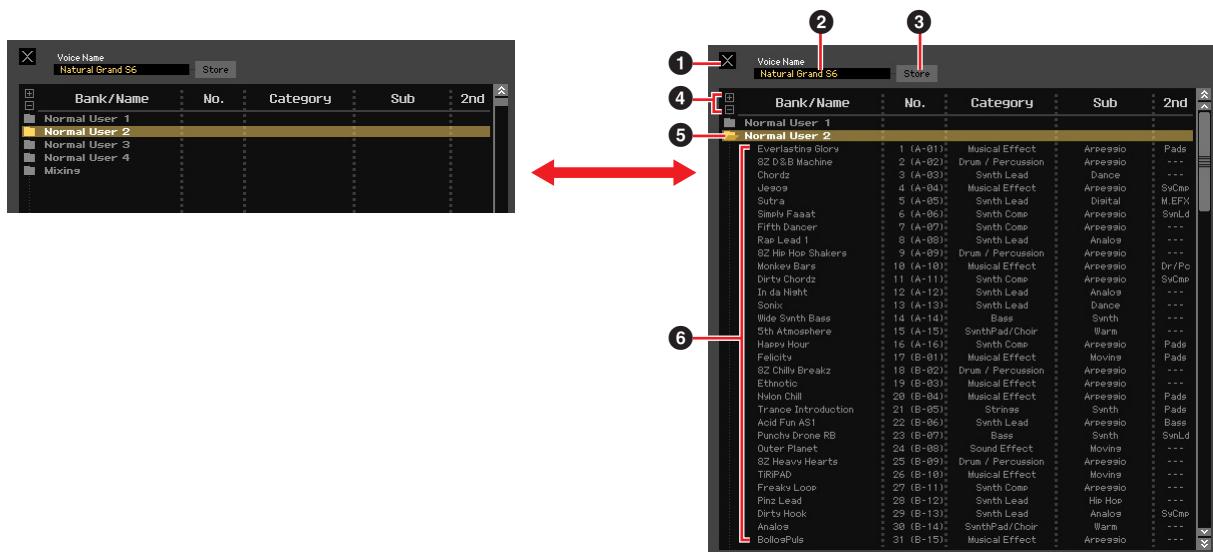
グローバルのストア

グローバルデータのストア(保存)を行ないます。このメニューを選択しただけで、グローバルのストアは実行されます。グローバルデータは、MOTIF XF エディター VST内ではなくMOTIF XF6/7/8本体内部のメモリーにのみストア(保存)されます。

ボイスのストア

このメニューを選択することで呼び出される画面上で、現在エディット中のボイスをストア(保存)します。ボイスモードでは現在エディット中のボイスを、ソングまたはパターンモードでは現在選択されているパートに割り当てられているボイスを、それぞれストア(保存)します。

保存したいバンクフォルダー (5)と、そのバンク内のボイスナンバーを選択し、保存するボイス名を入力します。最後に[Store]ボタンをクリックし、編集したボイスをユーザーボイス(ボイス/ソング/パターンモード)またはミキシングボイス(ソングまたはパターンモードのみ)として保存します。



① [×](終了)ボタン

ストアを実行せずにこの画面を閉じます。

② Voice Name (ボイスネーム)

保存するボイスの名前を表示/入力します。

③ [Store](ストア)ボタン

クリックすると選択した場所にボイスを保存します。

注記 他のパラメーターと同じように、MOTIF XF エディター VSTがONLINE (オンライン)の状態であれば、ボイスデータも MOTIF XF6/7/8本体とMOTIF XF エディター VSTとで同期しています。したがって、ここでストアを実行することにより、MOTIF XF6/7/8本体のユーザーボイスバンクまたはミキシングボイスバンク内の保存先に該当するボイスも同様に変更されることになります。大切なボイスデータが消去されることがないようご注意ください。

④ [+]/[-]ボタン

[+]ボタンをクリックすると、バンクフォルダー (5)の内容をすべて表示します。[-]ボタンをクリックすると、バンクフォルダー (5)の内容をすべて隠します。

⑤ バンクフォルダー

ここでは、ボイスの保存先となる以下のボイスバンクを表示します。

- Normal User 1 (ノーマルユーザー 1)
- Normal User 2 (ノーマルユーザー 2)
- Normal User 3 (ノーマルユーザー 3)
- Normal User 4 (ノーマルユーザー 4)
- Drum User (ドラムユーザー)
- Mixing (ミキシング)

これらのバンクをクリックすると、上図のようにそのバンク内のボイスリストを表示したり隠したりします。

なお、現在選択されているモードやエディット中のボイスの種類により、表示されるバンクが違います。Mixing (ミキシング) バンクはソングまたはパターンモードの場合のみ表示されます。また現在エディット中のボイスがノーマルボイスの場合はDrum User (ドラムユーザー) バンクが表示されません。同様に、現在エディット中のボイスがドラムボイスの場合はNormal User 1~4バンクおよびMixingバンクは表示されません。

⑥ ボイスリスト

選択しているバンクのボイスリストを表示します。ここで、保存したいボイスナンバーを選択します。ここで Windowsの場合は右クリック、Macの場合は<control>キー+クリックすると、「全フォルダーを開く」、「全フォルダーを閉じる」というメニューを選択できます。

ミキシングのストア(ソングまたはパターンモードのみ)

ソングまたはパターンモードのミキシング設定のストア(保存)を行ないます。このメニューを選択しただけで、ミキシングのストアは実行され、MOTIF XF6/7/8本体で現在選択されているSong/Patternのミキシングに、設定が上書き保存されます。

ボイスコンペア

エディット中のボイスを、一時的にエディット前のボイスに戻します。エディット前後の音を聞き比べることができます。この状態では、パラメーターはエディットできなくなります。もう一度選択すると元の状態に戻ります。

NOTE MOTIF XF6/7/8本体のコンペア機能とは連動していません。

ミキシングコンペア(ソングまたはパターンモードのみ)

エディット中のミキシングを、一時的にエディット前のミキシングに戻します。エディット前後の音を聞き比べることができます。この状態では、パラメーターはエディットできなくなります。もう一度選択すると元の状態に戻ります。

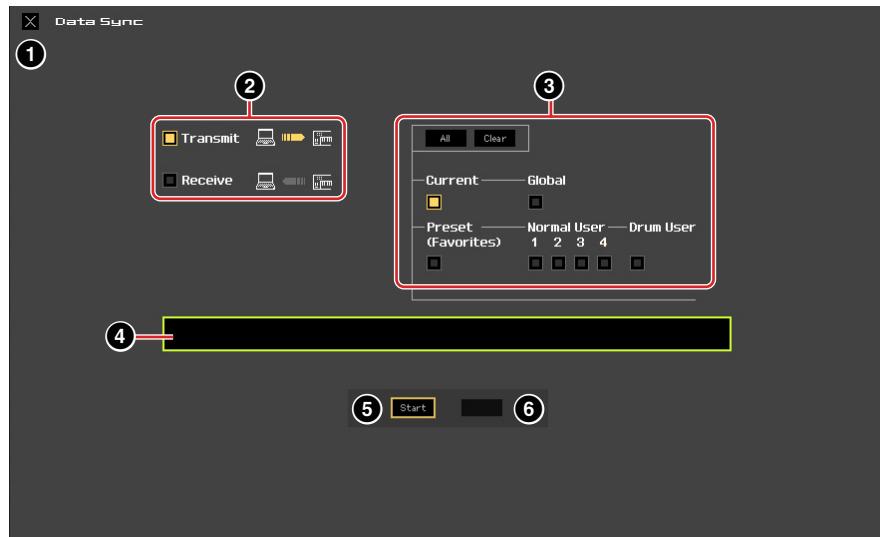
NOTE MOTIF XF6/7/8本体のコンペア機能とは連動していません。

[バルク]メニュー



データ同期

MOTIF XF6/7/8本体とバルクデータの送受信を行ないます。



① [×](終了)ボタン

データ同期を行なわずに画面を閉じます。

② [Transmit](トランスマット)/[Receive](レシーブ)チェックボックス

データ送受信の方向を設定します。

[Transmit] チェックボックス: MOTIF XFエディター VSTからMOTIF XF6/7/8本体へバルクデータを送信します。

[Receive] チェックボックス: MOTIF XF6/7/8本体からMOTIF XFエディター VSTへ送られてくるバルクデータを受信します。

③ 送受信するデータの種類

送受信するデータをタイプ別に設定します。[All]ボタンをクリックすると全タイプをオンにし、[Clear]ボタンをクリックすると全タイプをオフにします。

Current

カレントデータ(現在のエディット状態)を送受信します。

Global

グローバルデータを送受信します。

Preset (Favorites)

プリセットボイスのFavorites (フェーバリット) チェックに関する情報を送受信します。

Normal User 1~4

Normal User Bank 1~4のボイスデータを送受信します。

Drum User

Drum Userのボイスデータを送受信します。

④ プログレスバー

バルクデータの送受信状態を確認できます。

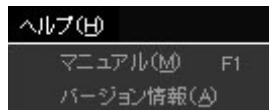
⑤ [Start](スタート)ボタン

バルクデータの送受信を開始します。

⑥ [Stop](ストップ)ボタン

バルクデータの送受信中にのみ表示されます。クリックすると、その時点でバルク送受信をストップします。

[ヘルプ]メニュー



マニュアル

本書を開きます。Adobe® ReaderなどのPDFファイル対応アプリケーションが起動します。

バージョン情報

MOTIF XFエディター VSTのバージョン情報が表示されます。

Auto Sync (オートシンク)画面

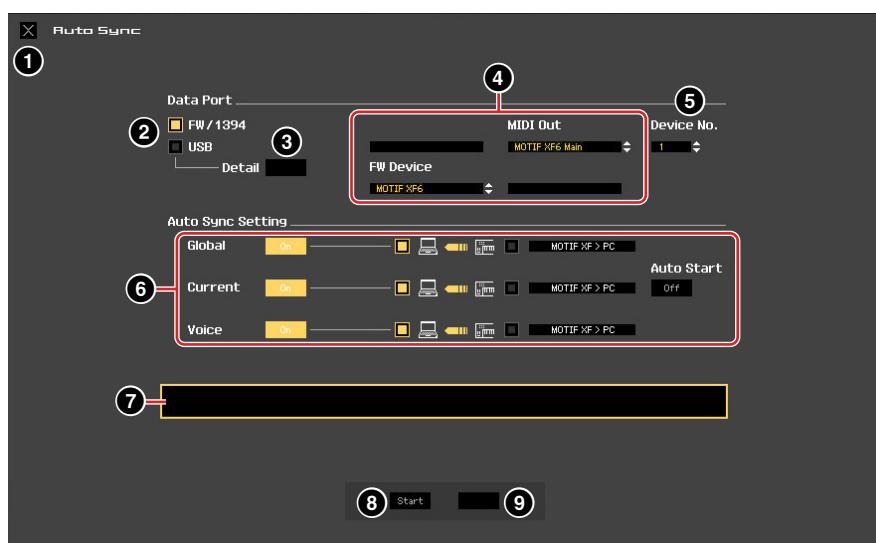
この画面は、MOTIF XF エディター VSTをOFFLINE (オフライン=MOTIF XF エディター VSTとMOTIF XF6/7/8本体の設定が連動しない状態)からONLINE (オンライン=MOTIF XF エディター VSTとMOTIF XF6/7/8本体の設定が互いに連動する状態)に切り替えるための画面です。

MOTIF XF エディター VSTがOFFLINE (オフライン)の状態のときは、画面上の[OFFLINE]ボタンをクリックすることで呼び出せます。その他にも、下記操作をした場合に自動的に呼び出されます。

- MOTIF XF エディター VST上でファイルを開いたとき
- MOTIF XF エディター VST上のファイルメニューの「新規作成」で新しいファイルを作ったとき
- ONLINE (オンライン)の状態で、モードを切り替えたとき
- ONLINEの状態で、MOTIF XF6/7/8本体のモードを切り替えたとき
- ケーブル接続が正しく行なわれている状態で、MOTIF XF6/7/8本体やコンピューター上で設定が、正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- MOTIF XF6/8本体やコンピューター上で設定が正しく行なわれている状態で、ケーブル接続が正しくない状態から正しい状態に変更されたとき

NOTE Auto Sync (オートシンク)画面内にあるAuto Start (オートスタート)をOnに設定してあると、Auto Sync画面が開いただけでデータ同期が始まる場合があります。詳細は、[41ページ](#)をご参照ください。

Auto Sync (オートシンク)画面では、Data Port (データポート)設定を正しく行なったあと、[Start](スタート)をクリックすることで、MOTIF XFエディター VSTとMOTIF XF6/7/8本体のデータ同期を行ないます。データ同期が終了すると自動的に画面が閉じられ、MOTIF XF エディター VSTはONLINE (オンライン)の状態になります。



① [×](終了)ボタン

ONLINE状態への切り替えを行なわずに終了します。

② [FW/1394]/[USB]チェックボックス

③ [Detail]ボタン

④ Port

⑤ Device No.

⑥ Auto Sync Setting

②～⑥は、エディター設定画面の同名の設定と同じ機能です。詳しくは[40～41ページ](#)の②～⑥をご覧ください。

⑦ プログレスバー

⑧ [Start]ボタン

⑨ [Stop]ボタン

⑦～⑨はデータ同期画面の同名の設定と同じ機能です。詳しくは[51ページ](#)の④～⑥をご覧ください。

トラブルシューティング

「音が出ない」、「正常に動作しない」などといった場合には、まずMOTIF XFとコンピューターとの接続を確認したあと、以下の項目をチェックしてください。

コントロールスライダーやチャンネルノブを操作しても音色(音の聞こえ方)が変わらない。

- MOTIF XF エディター VSTはONLINEになっていますか?
- [ONLINE]ボタンの左側のインジケーターは点灯していますか?
点灯していない場合、通信設定に問題があるかもしれません。MOTIF XFエディター VSTまたはCubaseシリーズのMIDIポート設定([40ページ](#))や、MOTIF XF6/7/8本体側のMIDI通信設定(ユーティリティーモードのMIDI画面の設定)、またはケーブルの接続が正しく行なわれているかを確認してください。
- エディター設定のMIDIポート設定やDevice No.が正しく設定されていますか? ([40ページ](#))

バルクデータの送受信ができない。

- 上記と同じ点(ONLINE表示、MIDIポート設定など)を確認してください。

MOTIF XF エディター VSTの画面で選択したいポート名が表示されない。

- エディター設定画面のMIDIポートは、Cubaseシリーズで設定されているMIDIポートの中から選択できます。CubaseシリーズでのMIDIポート設定を確認してください。
- ポート名の先頭に「!」マークが表示される場合があります。これはMOTIF XF エディター VSTで前回使用したポートが見つからない、またはMOTIF XF エディター VSTで必要となるポートが一部しか設定されていないことを示しています。CubaseシリーズでのMIDIポート設定を確認してください。

Cubaseシリーズのオーディオミキサーに、MOTIF XF6/7/8の音が入力されない

- VSTi設定([44ページ](#))でMOTIF XF6/7/8とオーディオ結線しているオーディオポートを設定してください。

VSTi設定画面で、[Auto]ボタンをクリックしても、前回使用していたオーディオポートが表示されない

- Cubaseシリーズの[デバイス]メニュー → [デバイス設定]の[VSTオーディオシステム]で前回使用していたオーディオポートの[表示]にチェックが外れているのが原因です。表示させたいポートにチェックを入れてください。

MOTIF XF6/7/8からCubaseシリーズに対してオーディオがマルチポートで出力されない

- MOTIF XFエディター VSTをVSTインストゥルメントラックに追加してご使用ください。
- VSTインストゥルメントラックで、「全出力を有効」にしてください([5ページ](#))。

MOTIF XF エディター VSTを使用後、MOTIF XF6/7/8本体から音が出ない

- MOTIF XF6/7/8本体のユーティリティーモード → [F2] I/Oの「FW Monitor Setup (FWモニターセットアップ)」を、「stand alone」に設定してください。
- MOTIF XF6/7/8本体の[SEQ SETUP] → [F3] Quickの「Quick Setup (クイックセットアップ)」画面で、「Setup Number 1」に設定してください。

ONLINEにならない、またはPort Open Errorメッセージが表示される

- MOTIF XF6/7/8本体が接続されているか、または電源はオンになっているかを確認してください。
- Cubaseシリーズの「デバイス設定」画面の「MIDIポートのセットアップ」でMOTIF XF6/7/8本体のMIDIポート4の「表示」覽にチェックがついている可能性があります。この場合は、「表示」覽のチェックを外して、「デバイス設定」画面のOKボタンを押して閉じてからMOTIF XFエディター VSTを再起動してください。
- Windows環境の場合は、他のアプリケーションでMOTIF XF6/7/8のポートを使用している可能性がありますので、他のアプリケーションを終了してください。またMIDIポートを使用しているアプリケーションが不正終了した可能性がある場合は、コンピューターを再起動してください。

Time Out ErrorまたはCommunication Time Out Errorメッセージが表示される

- MOTIF XF6/7/8本体からの応答が無いなどのエラー発生時に表示されるメッセージです。MOTIF XF6/7/8本体のユーティリティーモード → [F5] → [SF2] Recieve Bulk パラメーターの設定やMIDI In/Out パラメーターの設定を確認してください。

MOTIF XFエディター VSTは、改良のため予告なしにバージョンアップや変更をすることがあります。詳細および最新情報については、下記URLをご確認ください。

<http://www.yamahasynth.com/jp/downloads/>